



東京歯科大学広報



台北医学大学におけるElective Studyに参加した本学学生と
台北医学大学学生との記念写真：台湾・台北医学大学正門前

Elective Study

■台北医学大学におけるElective Study

姉妹校である台湾の台北医学大学において、「Elective Study」が平成23年7月31日（日）から8月4日（木）の日程で、第1学年から第3学年生の各2名、合計6名の学生参加のもとに開催された。国際渉外部が立案およびコーディネートをした「Elective Study」プログラムの目的は、海外の大学での施設見学、学生交流などを行うもので、東

京歯科大学では初めての試みであった。参加メンバーに関しては、各学年前年度の成績が上位35名に参加資格が与えられ、希望する学生の中から選抜された。約3ヶ月前から台北医学大学でも準備が始まり、東京歯科大学の学生を担当してくれる学生6名が内定した。事前に顔写真と英語による自己紹介文を冊子にまとめ全員に配布した。東京歯科大学側の学生6名は、まだ歯科医療の専門

2011年8・9月

250号

本号の主な内容

・ Elective Study	1
・ 第43回全日本歯科学生総合体育大会夏期大会開催	4
・ 第3回【テーマA】360度評価のための研修ワークショップ開催	13
・ がんプロフェッショナル養成プラン9大学合同チーム医療ワークショップ参加報告	17
・ 延世大学校歯科大学との学生交流 本学学生代表9名が訪韓	21
・ 東京歯科大学創立120周年記念誌「近代歯科医学教育を拓く」が完成	24
・ 平成23年度科学研究費補助金交付決定	25

教育を受けていないため、一般目標は「歯学部学生として積極的に海外の歯科事情へも目を向けるグローバルでアカデミックな意識を獲得する。」とし、行動目標は「台湾における歯科臨床体系の概要を説明する。」「台湾における特徴的な疾病とその対処、治療の概要を説明する。」「台北医学大学の学生と英語、日本語などでコミュニケーションをとり、情報交換を行う。」とした。これらは台北医学大学の学生にも事前に周知した。

研修先としては、台北医学大学付属病院、関連病院である Shuang Ho 病院（特に障害者歯科）、台南の関連病院 Chi Mei Medical Center を設定していただいた。連日午前中はレクチャー、見学などを通して台湾における歯科臨床の実際に接することができた。また、歓迎会、送別会などを台北医学大学主催で開催していただき、学生間の十分な交流の場を持つ事ができた。さらに台湾の歴史探索を目的に数ヶ所の名所を見学した。

学生は毎日積極的に取り組んでいたが、レポートをみると特に学生とのコミュニケーションの中からそれぞれの学生にとっての学びがあり、学ぶべきことを抽出できたようであった。台北医学大



連日午前中のスタートに行われた、講義と両大学の学生間の意見交換会：台湾・台北医学大学



特別に見学が許された Shuang Ho 病院 14階屋上にあるドクターヘリ・ヘリポートにて：台湾・台北

学における「Elective Study」は、事前の目標を大きく上回る成果があったのではないかと思います。

学生副部長 阿部伸一（解剖学講座・教授）

○台北医学大学 Elective Study 参加学生 6名

秋山沙由里（3年） 山口樹里（3年）
富樫 悠（2年） 朴 世津（2年）
齋藤菜月（1年） 富澤桃子（1年）



病院見学後の集合写真：台湾・台北医学大学付属病院



台湾歴史探索にて：台湾・安平樹屋 Anping Tree House（台南）

■テキサス大学歯学部における Elective Study

第4学年から第6学年生の「Elective Study」は、平成23年8月1日（月）から8月8日（月）の日程で各学年2名、合計6名の学生を対象として開催された。研修は、姉妹校である University of Texas Health Science Center at Houston の Dental Science Branch で行った。到着翌日の8月2日（火）に Dental Branch の歴史と今後の vision についての説明を受け、3日（水）から4日（木）までの2日間、endodontics, prosthodontics, orthodontics, periodontics の見学を交代で行った。

見学終了後、ニューヨークに移動した。ニューヨークでは6日（土）に、野口英世博士の旧別荘



University of Texas Health Science Center at Houston, Dental Branchの病院診療室での集合写真：米国、テキサス州ヒューストン



University of Texas Health Science Center at Houston, Dental Branch周囲のTexas Medical Centerの市街：米国、テキサス州ヒューストン



ニューヨーク郊外の野口英世博士の墓所にて：ウッドローン墓地、米国、ニューヨーク市ブロンクス



金子理事長による野口英世博士旧別荘内でのレクチャー：米国、ニューヨーク州シャンデーケン



ニューヨーク郊外の野口英世博士旧別荘にて金子理事長（前列中央）、佐野 司国際渉外部長（同左）、石原和幸教務副部長（同右）とともに：米国、ニューヨーク州シャンデーケン

で金子 譲理事長から野口先生の業績のlectureを受け、バーベキューを楽しみ、7日（日）に野口先生の墓所を訪ねその足で空港に向かい帰国の途についた。参加者は、United Statesを直接肌で感じenjoyしつつ、得るものも多かったようである。
教務副部長 石原和幸（微生物学講座・教授）



最終日の朝、イロコイホテルの前にて、金子理事長（右）、佐野国際渉外部長（右二人目）、石原教務副部長（左二人目）とともに：米国、ニューヨーク市

- テキサス大学歯学部Elective Study参加学生
6名
荒川啓太郎（6年） 石川宗理（6年）
崔 大煥（5年） 覺本貴仁（5年）
大竹智久（4年） 橘 継国（4年）

第43回全日本歯科学生総合体育大会（歯学体） 夏期部門開催

第43回歯学体夏期大会は、日本歯科大学生命歯学部が事務主管校となって平成23年7月29日（金）から8月11日（木）まで関東地方を中心に熱戦が繰り広げられた。今回の歯学体は、東日本大震災の影響を鑑み各部門の成績のみで大学別総合成績は付与しないことが決定したが、各地では各部門の、連日手に汗握る好ゲームが展開された。

本学からは、18部門304名の学生が競技に参加した。ユニフォームやキャップなどに「頑張ろう日本」のワッペンやシールなどを身につけて試合に臨み、震災の被害を受けた方々を少しでも勇気づけようと頑張った。

なお、部門別総合成績では、硬式庭球部（男女団体アベック優勝）、バレーボール部（男子優勝）、水泳部（男子優勝）が総合優勝に輝き、弓道部が総合準優勝と健闘した。

■第43回歯学体総合成績

東日本大震災の影響により、公平に総合順位をつけることが不可能ということで大学別総合成績順位の付与は行われなかった。

■第43回歯学体入賞部門 順位

硬式庭球部 総合優勝
男子団体優勝
女子団体優勝

バレーボール部	総合優勝 男子優勝
水泳部	総合優勝 男子優勝
弓道部	総合準優勝 女子団体第3位 女子団体敢闘賞
軟式庭球部(ソフトテニス)	総合第4位 女子団体準優勝
サッカー部	第4位
ゴルフ部	総合第4位 女子団体第3位
ヨット部	総合第5位
少林寺拳法部	総合第6位

■各部門で学生が活躍

バレーボール部	最優秀選手賞 久保宗平（6年）
水泳部	男子50M 自由形 第3位 中澤和真（3年）
	男子100M 平泳ぎ 第2位 齋藤 伸（1年）
	男子200M 平泳ぎ 第1位 齋藤 伸（1年）
	男子200M 自由形 第2位 加藤禎彬（2年）
	男子200M 背泳 第2位 佐藤 令（1年）
	男子200M 個人メドレー 第3位 西村達郎（2年）

男子200M フリーリレー 優勝
白取佑智(3年)・加藤禎彬(2年)
西村達郎(2年)・齋藤伸(1年)

男子200M メドレーリレー 優勝
白取佑智(3年)・加藤禎彬(2年)
西村達郎(2年)・齋藤伸(1年)

男子400M メドレーリレー 優勝
白取佑智(3年)・加藤禎彬(2年)
西村達郎(2年)・齋藤伸(1年)

男子800M フリーリレー 優勝
加藤禎彬(2年)・西村達郎(2年)
金澤康道(1年)・齋藤伸(1年)

男子800M 自由形 優勝 加藤禎彬(2年)

女子200M フリーリレー 第3位
伊尾歌織(6年)・野末雅子(4年)
喜田千尋(3年)・藤森香菜子(2年)

女子200M メドレーリレー 第3位
伊尾歌織(6年)・野末雅子(4年)
喜田千尋(3年)・藤森香菜子(2年)

弓道部

女子個人 第3位 宇田川詩織(2年)

軟式庭球部(ソフトテニス)

男子個人 準優勝
柳田治朗(6年)・岡田好広(6年)

女子個人 優勝
池田朋子(6年)・大山陽子(6年)

ゴルフ部

女子個人 準優勝 新藤久留美(1年)

陸上競技部

優秀選手賞 多田恵子(6年)
男子 800M 優勝 谷口修一郎(2年)
男子 1500M 準優勝 大矢恭太郎(5年)
男子 5000M 第3位 谷口修一郎(2年)
男子 110Mハードル 準優勝
浅井雅敏(6年)

男子 4×100Mリレー 準優勝
浅井雅敏(6年)・河合章太(5年)
木村翔馬(5年)・松崎和磨(3年)

男子 4×400Mリレー 準優勝
浅井雅敏(6年)・河合章太(5年)
木村翔馬(5年)・谷口修一郎(2年)

男子 走幅跳 準優勝 松崎和磨(3年)

男子 三段跳 準優勝 松崎和磨(3年)

男子 砲丸投 第3位 谷口健太郎(3年)

男子 円盤投 準優勝 谷口健太郎(3年)

女子 400M 準優勝 多田恵子(6年)

女子 800M 優勝 多田恵子(6年)

女子 3000M 優勝 多田恵子(6年)

ボウリング部

HG賞 江黒友悠(3年)

バドミントン部

男子シングル 第3位 三邊正樹(6年)

男子シングル 準優勝 大久保康彦(6年)

男子ダブルス 優勝
大久保康彦(6年)・三邊正樹(6年)

卓球部

新人戦 優勝 筒井新(1年)

男子シングルス 優勝 藤山祐平(2年)

少林寺拳法部

相對演武新入門 第3位

相場一輝(1年)・太田大聖(1年)

■デンタルを終えて

硬式庭球部主将 石田祥之助(4年)

今年の全日本歯科学生総合体育大会において、我々硬式庭球部は見事総合優勝を果たしました。今回の歯学体優勝を通じて大学へ貢献できた事を、部員一人一人が誇りに感じています。

昨年からの練習計画を立て、弱点を補強してきた事により成果が出た事は、非常に喜ばしい事です。今回の優勝は一人一人が力を合わせ、綿密な作戦と泥臭いプレーで勝ち得た勝利であり、個人で勝つ事よりも何倍も嬉しいものでした。

このような結果を残せた事は、大学の支援はもちろんですが、顧問の先生・OBの先生方のお陰であり、部員一同大変感謝しております。

■悲願の優勝

バレーボール部主将 田中亜生(4年)

ちょうど1年前、僕がキャプテンを引き継ぎどうなることやら心配でした。一昨年のベスト8、昨年の2位という悔しい思いを胸に今年こそはと挑んだ歯学体、先生方・OBの先輩方の多大な支援と、ずっと一緒に戦ってきた仲間の団結力により、全ての試合を20点以下に抑えてのストレート勝ちで、デンタル優勝という素晴らしい結果をもぎ取る事ができました。この10年間バレーボールをしてきた中で、最高の仲間達と戦った一番の

大会でした。

この東京歯科大学バレー部を応援して下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



バレーボール部門 豪快なスパイクで相手を撃破。念願の優勝：平成23年8月11日（木）、東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

■バレーボール部門 最優秀選手賞を受賞

久保宗平（6年）

私は通算5回のオールデンタル出場をし、2回の優勝を経験させていただくことができました。今年は東京開催ということもあり、学生副部長で解剖学講座の阿部教授や学生課の小倉課長などもいらしていただきました。重ねて御礼申し上げます。

東京歯科大学に入学してからの六年間、バレーボール部員として活動してきました。その中で、実に様々な方々と出会いがあり、別れがあり人生の糧として成長することができました。部長の坂先生を始め、大学関係者、OBOGの先生方、先輩後輩マネージャー、家族、友人その他全ての関係者の協力なしにオールデンタル優勝はおろか部が活動できていないでしょう。本当にありがとうございました。

全ての人に感謝を忘れずにこの経験を噛み締め、今後は現役部員にそれを伝え協力できる様に精進していきます。

■弓道部

主将 古澤春佳（4年）

私は、入部前にある先輩の的心に矢を当てる姿を見て感動し、大学から弓道を始めました。

後輩という立場の時は、部活に対し真面目な先輩方の背中を見ながら日々練習に励んでいました。その中で先輩方のデンタル優勝を目標に頑張る姿を見てきて、部活の最高学年となった4年生

で優勝を目指す事は自然な事でした。先輩の成し遂げる事のできなかつた優勝を目標に、部員40名で日々練習を重ねました。

結果は優勝には及ばず準優勝となり、悔しさも残りますが、ここ最近入賞はしていたものの、優勝には遠かった弓道部としては、心から喜ぶことのできる結果となりました。

ただ、この結果に満足せず、来年以降後輩達には頑張ってもらいたいです。

最後に、今年このような結果を残すことができたのは、ご指導頂いた師範、いつも気にかけて下さった部長の矢島先生、OBの先生方や先輩方、また、私達4年生についてきてくれた後輩達のお陰だと思っています。心から感謝しています。ありがとうございました。



弓道部門 雑念を払い、白的的に矢を放つ：平成23年8月5日（金）、東京都・明治神宮至誠館弓道場

■軟式テニス部

6連覇を達成した 池田朋子（6年）・大山陽子（6年）ペア

私たちはデンタルで5連覇をしているが、誰に対しても挑戦者としてテニスの試合をしようと考えていました。最後のデンタルの試合は今までで1番強い相手で、1度逆転され苦しくなった時もありましたが、軟式テニス部の全部員が応援してくれて、本当に力になりました。優勝して6連覇をした時、嬉しさと達成感と安心感で、自然に涙が出てきました。本当に嬉しかったです。

ここまでくる事ができたのは、いつでも私達のそばで時には厳しく、時には優しく教えて下さった中尾先生と、学校で私達と一緒に練習をして下さった顧問の武本先生、デンタルや合宿にはいつでもかけつけて下さったOBの先生、そして、いつでも練習の時には一緒に頑張ったり、気持ちに負けそうになった時に励ましてくれたり、アドバ

イスをし、応援してくれた軟式テニス部のみんなのお陰です。

心から感謝の気持ちで一杯です。今まで6年間本当にありがとうございました。

■第43回歯学体ボウリング部門主管を終えて

ボウリング部主将 明石良彦 (3年)

いまはデンタルが無事に終わり、ほっとしています。

ちょうど1年前の夏にデンタルの部門主管を引き受けることが決まったとき、自分たちでデンタルを今までのように開催できるのだろうかと不安だったことが非常に懐かしく感じられます。さらに今年のデンタルは、未だ忘れることのできない3月11日の東日本大震災の影響で開催が危ぶまれ、本当に開催できるのか不安だったときもありました。

なんとか無事開催にこぎつけたと思ったら、大会中はさまざまなトラブル等が生じ、うまく運営できない自分の力不足を実感せざるを得ませんでした。しかし、参加していただいた各大学みなさんに「楽しかった」、「いい思い出になった」といっていただき、非常に嬉しく、私たちにとってもいい思い出となりました。

今回デンタルの部門主管というなかなか経験できるものではないことを経験でき、いろいろなことを学ぶことができました。来年は更に練習を重ね、参加者としてデンタルを盛り上げていきたいと思っています。

最後になりましたが、今大会の開催を支えてくださったすべての方々に感謝いたします。



ボウリング部門 綺麗なフォームでスパアを狙う：
平成23年8月2日（火）、千葉県・千葉リバーレーン

■第43回歯学体・歯学体評議員を終えて

齋藤 杜 (4年)

私が平成23年度の歯学体評議員に任命された

のは今年の4月の事でした。あまりにも突然の話であったため、最初は自分に大学の代表など務まる訳がないと思い辞退させていただこうと思いましたが、学生部長の先生や学生課の皆様にご説得され思い切ってやらせていただく事に致しました。しかし、案の定わからない事だらけで、最初の会議の時などはほとんど何をしたいのかも、何をしたいのかもわからず、副評議員の渡辺君に任せる形になってしまいました。また、3月の震災で大会の開催すら危ぶまれている状況であり、会場や主管校の変更など、いくつかシビアな議題が話し合われていたため、私のような新参加者が会議に参加していいものだろうかと不安になりました。しかし、他校の評議員の方々の何としても歯学体を成功させたいという意気込みが伝わってきて、私もこの歯学体を成功させる事に協力したいと感じるようになりました。

会場や主管の問題と予算関係の確認以外は、前々からの準備がしっかりしていたため問題が無く話し合いが進み、後は大会開催を待つだけとなりました。震災の影響で今年は大学ごとの順位が付かなかったのが非常に残念でしたが、結果はどの部活も一生懸命参加し、部門ごとの順位はどの部活も非常に良かったと思います。やはり自分が開催に係わった大会に多くの方が本気で参加してくれたと思うと、評議員をやらせていただいて良かったと感じました。ちなみに私は柔道部に所属していますが、今年は怪我で出場できず、部としても成績が揮わなかったのが残念でした。

大きな事件や事故も無く大会が無事に終わり、来年の主管校である鹿児島大学にしっかり引き継ぎを行えたようなので安心しました。この経験やここで新しくできた人間関係などは私のこれからの人生で大きな宝物になると思います。

最後に私を推薦して下さった学生部長の先生、学生課の皆様、応援して下さった柔道部長の先生、歯学体運営を支えて下さった評議員の先生方、主管校の日本歯科大学生命歯学部の評議員の皆様、全参加校の評議員の皆様、副評議員の渡辺君に感謝させていただきます。

■来年は、鹿児島を舞台に

平成24年度の第44回大会は、鹿児島大学歯学部の事務主管により、九州を中心に開催される予

定である。

■歯学体スナップ



硬式庭球部門 絶好球を振り抜き、エースとる：平成23年7月31日（日）、千葉県・白子町テニスコート



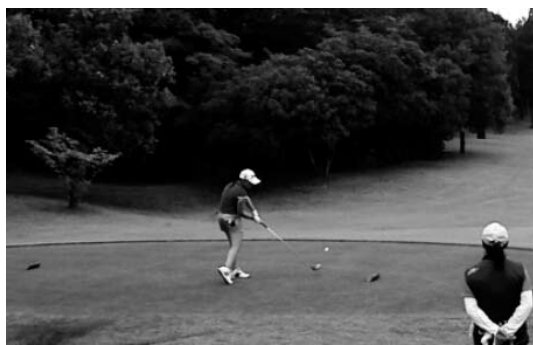
ソフトテニス部門 一気に前方に詰め、ボレーを決める：平成23年8月2日（火）、宮城県・青葉山公園テニスコート



水泳部門 名門復活、久しぶりの優勝：平成23年8月3日（水）、広島県・広島ビッグウェーブ



サッカー部門 華麗なドリブルでゴールを狙う：平成23年8月4日（木）、長野県・サニアパーク菅平



ゴルフ部門 ファアウェイど真ん中へ、ナイスショット：平成23年8月3日（水）、千葉県・グリッサンドゴルフクラブ



剣道部門 素早い踏込で一本を狙う：平成23年8月7日（日）、東京都・有明スポーツセンター



ヨット部門 大海原で大自然を味方につけてゴールを目指す：平成23年7月30日（土）、愛知県・海陽ヨットハーバー



空手道部門 間合いを詰めて、一気に攻撃：平成23年8月7日（日）、東京都・台東区リバーサイドスポーツセンター



少林寺拳法部門 カウンターの膝蹴りで一本：平成23年8月7日（日）、東京都・千代田区立富士見小学校



硬式野球部門 柔らかいフォームから剛速球：平成23年8月2日（火）、東京都・大田スタジアム



陸上競技部門 全力疾走、全員の心をバトンに込めて：平成23年8月7日（日）、東京都・上柚木競技場



バドミントン部門 名コンビの息の合ったプレーでダブルス優勝：平成23年8月4日（木）、東京都・町田市民総合体育館



柔道部門 相手の呼吸を読み技のタイミングを探る：平成23年8月6日（土）、東京都・墨田区総合体育館



フットサル部 ヘディングで競り勝ちゴールを狙う：平成23年8月11日（木）、北海道・札幌イーワンスタジアム

学内ニュース

■第1回千葉・水道橋・慶應義塾大学病院歯周病勉強会開催

平成23年6月16日(木)午後7時より、水道橋校舎13階B教室において、第1回千葉・水道橋・慶應義塾大学病院歯周病勉強会が開催された。

この勉強会は、東京歯科大学歯周病学講座、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科、東京歯科大学口腔健康臨床科学講座で交流を図り、各病院における歯周病治療のより一層のレベルアップを目的として立ち上げられたものである。今回の勉強会は水道橋病院臨床教授の二階堂雅彦先生による「Evidence Based Periodontologyを実践しよう!」、水道橋病院総合歯科の井田 篤レジデントによる「重度慢性歯周炎患者にエナメルマトリックスデリバティブによる再生療法およびインプラント補綴を行った一症例」と題した2演題で行われた。

歯周病学講座 齋藤 淳教授、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科 中川種昭教授の挨拶の後、井田レジデントの講演が行われた。広汎型重度慢性歯周炎に罹患した患者に対し、歯周基本治療、再生療法を含めた歯周外科治療、口腔機能回復治療としてのインプラント治療、そしてSPT治療に移行するまでの経過を、豊富な口腔内資料を提示しながらの症例報告となった。発表終了後には聴講者から咬合状態に関する質問や、インプラント治療を行う際のプラキシズムに関する質問など、活発な質疑応答が行われた。

引き続き、二階堂臨床教授より講演が行われた。講演内容を1. Postgraduate Program in US

2. Paradigm Shift in Periodontologyの2つの項目に分け、1. では留学先であったTufts University School of Dental MedicineにおけるPostgraduate Programを紹介され、EBMの重要性について説明された。2. では現在の歯周病治療における問題点である①歯はどこまで残せるのか ②インプラントに置き換える+歯周形成外科の2点について、水道橋病院、及び二階堂臨床教授の診療所で行ってきた臨床例を提示しながら、わかりやすく説明していただいた。

今回、外部からの参加を含めた聴講者は、豊富な資料を基に提示された症例について熱心に耳を傾けていた。今後、勉強会は定期的を実施される

予定である。



講演される二階堂臨床教授：平成23年6月16日(木)、水道橋校舎13階B教室



講演する井田レジデント：平成23年6月16日(木)、水道橋校舎13階B教室

■東京歯科大学千葉病院医療連携講演会開催

平成23年8月4日(木)午後3時30分より千葉校舎第5教室において「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉病院との連携強化を目的として開催している。今年は3月11日(金)に発生した東日本大震災の影響による節電のため、講演会の規模を縮小し、内容も午後3時30分からの「一般講演」、午後6時からの「ワークショップ」の2部構成として行われた。

一般講演の演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会の代表委員と千葉病院の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定し、講演を行っている。ワークショップのテーマは、「口のケアについて」と題して、複数の演者が異なる視点から講演を行い、その後、ディスカッションが行われた。

※今年度の演題および演者

【一般講演】

1. 「難治性根尖性歯周炎に対する歯の再植」
歯科保存学講座 教授 中川寛一
2. 「歯科用コーンビームCTの誤った認識」
歯科放射線学講座 助教 西川慶一
3. 「外傷歯冠破折永久歯に対する破折片接着法の実際」
小児歯科学講座 教授 新谷誠康

【ワークショップ】

1. 「口のケアについて」
口腔外科学講座 講師 山内智博
歯科衛生士部 主任歯科衛生士 長澤恵子
千葉県歯科医師会 会員 地主明弘

当日は110名以上の参加者を迎え、高野伸夫千葉病院長ならびに柴原孝彦医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。一般講演は各演題30分間の講演が行われ、発表後10分間の質疑応答時には、日常診療における各種問題点の解決方法や治療に対する創意工夫について意見が交換された。休憩時間中には、参加者からの症例相談に応

じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携協議会委員が対応した。ワークショップにおいても活発な意見が提示され、参加者は千葉エリアで実施されている様々な口のケアのアプローチについて理解を深めることができ、大いに盛り上がりつつ午後7時に講演会は終了した。

■平成24年度臨床研修歯科医募集病院説明会開催

平成24年度臨床研修歯科医募集病院説明会が、平成23年7月11日(月)午後6時より千葉校舎第4教室にて、8月6日(土)午後1時より水道橋校舎血脇記念ホールにて各々開催された。

本説明会は千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の三病院合同で年2回、本学学生対象と他大学学生対象に実施している。7月11日は本学の学生対象に、8月6日は他大学の学生対象に説明会を行い、総計268名の参加があった。

説明会は、千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の順に各病院の臨床研修プログラムの特色・概要を説明し、続いて高橋俊之臨床研修委員長より9月4日(日)実施の三病院合同で行う臨床研修歯



挨拶をする高野千葉病院長：平成23年8月4日(木)、千葉校舎第5教室



各施設からの説明を真剣に聞く参加者：平成23年7月11日(月)、千葉校舎第4教室



演者に質問をする参加者：平成23年8月4日(木)、千葉校舎第5教室



臨床研修歯科医選考について説明する高橋臨床研修委員長：平成23年8月6日(土)、水道橋校舎血脇記念ホール

科医選考についての説明を行った。

臨床研修歯科医選考の説明後、希望者に対して、本学に協力している臨床研修施設のうち、管理型臨床研修施設として独自の研修プログラムを作成した、つがやす歯科医院、医療法人社団八龍会すずき歯科医院、医療法人社団歯友会ファミリー歯科およびUクリニック五十嵐歯科より、施設の説明を行った。

説明会後には各施設で個別質問の時間を設け、参加者からの質問に応じ、会を終了した。

■がんプロフェッショナル養成プラン

口腔がん専門医養成コース平成23年度初期研修開催

平成23年8月9日(火)、10日(水)の2日間、東京歯科大学千葉病院と市川総合病院でがんプロフェッショナル養成プラン平成23年度初期研修が開催された。これは本学ががんプロが毎年行っている事業であり、各学年の大学院生が口腔がん研修カリキュラムに沿った現状報告を行い相互ディスカッションを開催することと、例年講師を招いて口腔がんに対する診断、治療を学ぶことを目的としている。講演は野村武史コーディネーターの司会進行のもと、井上 孝大学院研究科長による「大学院におけるがんプロの意義－Translational Researchについて－」と題した講演に始まり、口腔がんセンター長、オーラルメディスン・口腔外科学講座 片倉 朗教授より、「口腔がんセンターの在り方 がん医療での歯科の役割」、口腔外科学講座 柴原孝彦教授より「口腔癌の外科的治療の基本」、山内智博講師より「口腔癌の栄養サポートについて」、口腔がんセンター 佐藤一道講師



がんプロ初期研修参加者・コーディネーターと当日講演いただいた柴原教授(前列左)、田中准教授(前列右)：平成23年8月10日(水)、東京歯科大学口腔がんセンター

より「化学療法の基本」、放射線科 辰野 聡准教授より「頭頸部癌の画像診断(再発症例を中心に)」、臨床検査科 田中陽一教授より「口腔癌の病理について」、そして形成外科 田中一郎准教授より「口腔癌の再建手術」についてそれぞれ講演が行われた。2日間にわたる大変密度の濃い、充実した内容であった。

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成23年8月27日(土)午後1時より、水道橋校舎2階の血脇記念ホールで開催された。

ガイダンスは、解剖学講座の阿部伸一教授による「知っておきたい人体“食べること、のむこと”の神秘」と題した模擬授業から始まり、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、平成24年度入学試験の概要、入試科目のポイント等について説明があった。さらに、前回大変好評であった、“在学生のメッセージ”は、臨床実習中である5年生から、自身の大学生活等など、学生目線の語り口で高校生にも分かりやすい説明があった。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。121名もの参加があり、大盛況なガイダンスとなった。

今後のガイダンスは、10月2日(日)、12月17日(土)に水道橋校舎で実施する予定である。

■がんプロフェッショナル養成プラン主催 学内セミナー開催

平成23年9月5日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、がんプロフェッショナル養成プラン主催による学内セミナーが開催された。

本学は北里大学を主幹とする南関東圏がんプロフェッショナル養成機関に平成20年度より参画しており、今までに本プランの教員養成を目的として本学教員3名が海外研修を行っている。当日は、フロリダ大学で研修を行った、オーラルメディスン・口腔外科学講座 高木幸子レジデントより「フロリダ大学 海外研修を終えて」、千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 大久保真衣講師から「頭頸部放射線治療に

おける摂食・嚥下リハの実際」、そして、有床義歯補綴学講座の石崎 憲講師より、「米国における顎顔面補綴治療の現状 (UCLAへの留学を終えて)」と題し、1年間の研修について報告がなされた。今回の講演では、大学院口腔がん専門医養成コースの大学院生や関連講座から50名余の参加者がおり、多くの質疑応答が行われた。



講演する石崎講師：平成23年9月5日（月）、千葉校舎第2教室

■平成23年度市川総合病院防災訓練実施

防災週間（平成23年8月30日（火）から9月5日（月））に合わせて、市川総合病院では平成23年9月8日（木）に、建物設備等の点検及び自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

まず、午後1時30分より、栄養管理室前広場において、消火器及び屋内消火栓取り扱い訓練が市川市西消防署員指導により行われ、続いて午後2時30分から大規模な地震が発生した際の防災センターへの通報訓練が行われた。

午後3時からは、火災発生を想定した屋内消火栓取り扱い訓練及び通報・避難訓練が5階西病棟を発火場所として行われた。患者様の安全を確保するための初期消火活動から実際に模擬患者等を



消火器及び屋内消火栓取り扱い訓練：平成23年9月8日（木）、市川総合病院栄養管理室前広場

設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われ、最後に消防署員より講評をいただいて終了となった。

■第3回【テーマA】360度評価研修ワークショップ開催

平成23年9月17日（土）午前9時40分より、千葉校舎第2教室および第3, 4, 6セミナー室において、第3回360度評価研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムで選定された本学の取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」における評価体制の軸となる研修であるとともに、本学のFD活動の一環として実施するものである。本取組は、「コミュニケーション教育」と「医療倫理教育」をさらに発展させ、「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と「ペイシエント・コミュニティ（P-Com）」の設立を軸としており、これらにより、国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成しようとするものである。

今回は、昨年度実施した第1回と第2回のワークショップを受講したタスクフォースを中心に、本取組の中心的なメンバーとなる参加者が集まった。

まずはじめに、360度評価についての講演を行い、次にロールプレイによる評価および小グループでのフィードバック技法等についての実践的な演習を行った。これらを通じ、昨年度から導入・実施の360度評価による態度・技能評価方法の習得を目指し、教員個々の態度・技能評価能力の向



グループでのロールプレイ風景：平成23年9月17日（土）、千葉校舎第3セミナー室

上を図った。

最後の全体討議において参加者からは「学生のみならず研修医、大学院生、医局員の自己評価に対する評価など多くの場面で応用できる」、「ロールプレイを活用した演習であったので360度評価についてより実践的に理解することができた」等の意見が挙げられた。

次回は学習評価のより一層の充実を目指し、メンバーを追加して10月22日(土)に開催する予定である。

■第105回歯科医学教育セミナー開催

平成23年9月20日(火)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第105回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「Elective Studyについて」と題し、今年度から開始した新たな取り組み“Elective Study”について、国際渉外部長の佐野 司教授、教務副部長の石原和幸教授、そして学生副部長の阿部伸一教授より、報告が行われた。

はじめに、佐野教授より“Elective Study”実施に至るまでの背景、経緯そして概要が説明された。

次に、引率した、阿部教授(台北医学大学)、石原教授(テキサス大学)により、スライドを用いた報告がなされた。台北医学大学においては、比較の見学しやすい環境で、自由に見学することができた。また、見学だけでなく現地の学生との交流や、歴史的施設を訪れるなど、文化交流も盛んに行われた。学生主体で取り組んだこともあり、初めは自分自身が選ばれたことすら不安に感じていた学生が、しっかり自分の考えを持つようになるなど、学生に大きな変化があった。

テキサス大学においては、患者さんが少ない時



説明する佐野教授：平成23年9月20日(火)、千葉校舎第2教室

期に当たり、見学できる範囲が限られてしまったが、その中でも積極的に取り組んでいたとのことであった。また、本学にゆかりのある地を訪れるなど充実した内容であった。

最後に、佐野教授より、今回の取り組みを通じての課題や、それに対する改善策等が挙げられ、また他大で実施予定の大学院生を対象とした海外プログラムが紹介された。今後、今回の結果を踏まえ議論・検討を重ねていくことで、学生一人一人のモチベーションを上げる取り組みへとさらに発展することが期待される内容であった。

■平成23年度第4回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年9月26日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成23年度第4回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は個人情報保護に関する研修として、水道橋病院放射線科の相澤光博診療放射線技師による「コンピュータの感染予防」と題した講演を行った。相澤技師は、他院などから報告のあった個人情報流出や、コンピュータウイルス感染によるネットワークトラブルなどの実例を示し、ネットワークに潜む脅威の基本的な対処法について説明した。

講演は、まず情報セキュリティの基礎について解説がなされた。悪意を持った人間による院内ネットワークへの侵入により、個人情報などの情報漏えいや重要なデータやファイルを破壊される恐れがあること、ネットワークなどに過剰な負荷をあたえて病院業務を妨害する行為が起り得ることを説明し、これに対して病院の情報資産を守ることの重要性を強調した。

続いて、コンピュータウイルスの具体的な対策について解説がなされた。悪意を持った侵入者はシステムの脆弱性を悪用する「コンピュータウイルス(不正プログラム)」を多く用いることを指摘し、ソフトウェアのアップデートによって脆弱性の対処ができることや、セキュリティソフトの導入で侵入防止やコンピュータウイルスの感染予防に大変有効であることを説明した。

そのほかにもUSBメモリに代表される可搬媒体が便利であることの反面、コンピュータウイルスの感染経路となりうること、可搬媒体の紛失が

個人情報流出事故となることから、その取扱いに注意を促した。またIDやパスワードを盗むことが、最も簡単なシステム侵入方法となるため、各個人のID・パスワード管理の重要性を訴え講演を終了した。

今回の講演内容は、ネットワークに潜む脅威を知ることによって、病院情報システムの個人情報保護を認識する大変有意義な研修会となった。



講演する相澤診療放射線技師：平成23年9月26日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール

■平成23年度解剖諸霊位供養法会

平成23年9月28日（水）午後2時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成23年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

井出吉信学長はじめ大学幹部、関係教職員、第2学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列し、歯科医学の教育と研究のため尊いご遺志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝の意を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来4千有余柱の御霊に向かい、真珠院 石井道彦導師により誦経が行われ、井出学長が祭文を奉読したのち参列者全員の献花が行われた。



祭文を奉読する井出学長：平成23年9月28日（水）、水道橋校舎血脇記念ホール

続いて、学生を代表して第2学年の辻輝さんよりご遺族に対して挨拶があり、次に、ご遺族を代表して高山睦子様よりご挨拶を戴き、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が、文京区小石川の真珠院を墓参し散会となった。

■第332回大学院セミナー開催

平成23年9月28日（水）午後5時15分より、千葉校舎第2教室において、第332回大学院セミナーが開催された。今回は国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部スーパー特区対応部門特任研究員片倉建男先生をお迎えして「企業における医療機器の開発研究」と題した講演を伺った。片倉先生は、大阪大学工学部をご卒業後、テルモ株式会社に入社され、人工皮膚開発を始め、歯科領域においては、抜歯窩に応用するコラーゲン製剤であるテルダームスやテルプラグを開発された。また、所属団体では、日本医療器材工業界、総合インプラント部会長、再生医療部会長や日本医療機器関係団体連合法制委員会委員、審査ガイドラインWG主査、生物由来製品WG主査などのほか、公務では内閣府スーパー特区フォローアップ委員、文部科学省幹細胞・再生医学戦略作業部会委員、経済産業省課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業有識者委員などを歴任されている。ご講演は、企業の立場から、医療機器の概要と企業における開発プロジェクト、さらには具体的な製品開発中の出来事などについて触れられ、大学院生を始めとする研究者が医療機器を開発するための知識・方法をご教授頂いた。講演後には、自分の研究が医療応用される可能性、またどのようにすれば実現できるかなど



講演される片倉先生：平成23年9月28日（水）、千葉校舎第2教室

の質疑が活発に行われた。

■第333回大学院セミナー開催

平成23年9月29日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第333回大学院セミナーが開催された。今回は日本大学歯学部歯科保存学Ⅱ講座 小木曾文内教授をお迎えして「居酒屋講座のお品書き」と題した講演を伺った。小木曾先生は、昭和54年に日本大学歯学部をご卒業後、カナダトロント大学にご留学され、その間、積極的に生物学的研究の研鑽を積み、同講座に多くの研究手法を持ちかえられた。講演演題のように、居酒屋のメニューのように多面的な研究、つまり材料などの開発から臨床基礎を問わず、in vivo, in vitroなど幅広い研究ができる教室であることをユーモアある語り口で話された。その中で、材料開発の一例としては非接触型の歯の動揺測定装置の開発による客観的歯牙病態の診断、歯髄や根尖病巣の治療に用いる薬剤の開発、さらには、歯

牙の疼痛に関する生理学的研究など幅広い分野の一端を話された。研究の話題に先立ち、日本大学歯学部における大学院教育も話され、日本大学では、大きく、口腔構造機能学分野、応用口腔科学分野、そして口腔健康科学分野の3つに分けられており、基礎と臨床が融合された形で大学院生の指導に当たれるメリットを述べられた。今回の講演には50余名の参加者があり、多くの質疑応答があり、大変有意義なものであった。



講演される小木曾教授：平成23年9月29日(木)、千葉校舎第2教室

トピックス

■第31回歯科薬物療法学会学術大会・総会開催

第31回歯科薬物療法学会学術大会・総会が、平成23年6月24日(金)から26日(日)までの日程で、本学薬理学講座 川口 充教授が大会長のもとに千葉市において開催され、幕張メッセ国際会議場において学術大会と総会、ホテルスプリングス幕張において理事会・評議員会が行われた。

教育講演、特別講演はそれぞれ、岡山大学医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野教授の窪木拓男先生に「世界的レベルの臨床研究を実践するための具体的知識」、産業総合研究所健康工学研究部門の脇田慎一先生に「唾液でストレスを簡単に測れるか：バイオチップ研究開発の最前線」と題したご講演お願いしたほか、学術発表では、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、シンポジウム、ミニシンポジウム、一般口演、ポスター発表、講習会では、臨床治験担当者制度講習会、ICD講習会の総計10種目60題が行われた。

今回は、テーマごとにフォーカスを絞った発表形式にしたこと、学会発表賞に年齢制限を置かず、一般発表と大学院生発表、それに卒前の学生

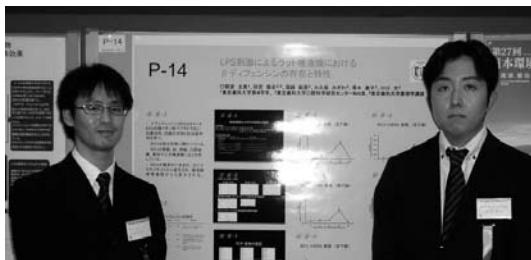
発表と受賞対象を年齢区分で分け、参加意欲を促し学会の活性化が図られた。本学からは、シンポジウム2人、ミニシンポジウム2人、口演発表2人、ポスター発表1人の合計7人の参加があり、口腔科学研究センター HRC8 (生理学講座)の佐藤正樹ポストドクトラル・フェロー、木村基善君(5年)、朝波圭貴君(4年)が受賞した。

25日(土)の懇親会では、本学オーケストラ部員矢崎紗保さん(3年)、前原彩香さん(3年)、



学会発表賞・大学院生部門の受賞者に賞状を手渡す川口大会長(右)：平成23年6月26日(日)、幕張メッセ国際会議場、千葉市

佐藤 麗さん(2年)、鈴木聡太君(2年)の4名の諸君による校歌と室内楽の演奏、千葉県産の日本酒、焼酎、ワインの利き酒の特設コーナーを設け好評を博すなど、和やかな雰囲気の中に終始することができた。



卒前学生部門のポスター発表の前の朝波君(4年、左)と四宮敬史助教(右)：平成23年6月26日(日)、幕張メッセ国際会議場、千葉市



口演発表する木村君(5年)：平成23年6月26日(日)、幕張メッセ国際会議場、千葉市

■東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)に対する東京歯科大学としての支援(6)

3月28日付ポータルサイトにてお知らせしました「東北地方太平洋沖地震に対する東京歯科大学としての支援を開始(1)」における[7]被災同窓生へのお見舞金については、同窓会本部の協力を得て被害状況を調査し、すでに第一弾として福島県の被災者を中心に6月29日付で45名の同窓生に対し総額103万円をお渡し致しておりますが、この度全同窓の被害状況調査がまとまり、新たに8月1日付で133名の同窓生に対し総額133万円をお渡ししましたのでお知らせします。

■がんプロフェッショナル養成プラン 9大学合同チーム医療ワークショップ参加報告

南関東圏がんプロフェッショナル養成機関9大学共同事業の一環として平成23年度チーム医療ワークショップが平成23年8月4日(木)から7日(日)の4日間開催された。場所は東京都府中市のクロスウェーブ府中で、各9大学の大学院生が集

まり、他職種間の人事交流と、がんに対する総合的なアプローチを実践するための講義、シミュレーション実習が行われた。北里大学医学部が主管として行われるこの通称「夏合宿」に、当大学院に本年度入学し、がん専門医養成コースに所属した鈴木大貴大学院生と逢坂竜太大学院生が参加し、がんに対する基礎を学んだ。またコーディネーターである片倉 朗教授と野村武史講師が参加し、片倉教授より「がん医療における歯科口腔外科の役割」と題した講演が行われた。また、昨年、関根理予大学院生(現3年次)と吉田佳史大学院生(現3年次)がそれぞれ、平成22年度大学院生プロジェクト研究採択者に選ばれたため研究経過報告を行った。夏の大変暑い時期での開催であり、日中は勉強会、夜は親睦会と大変内容の濃いプログラムであったが、他業種との密な人事交流を図ることができ充実した4日間であった。



9大学合同チーム医療ワークショップ会場にて、がんプロコーディネーターの片倉教授(左)・野村講師(右)と鈴木大学院生(中央左)・逢坂大学院生(中央右)：平成23年8月4日(木)、クロスウェーブ府中

■解剖学講座OB会より大学へのご寄付

解剖学講座OB会より大学へ100万円が寄付された。

解剖学講座OB会は、解剖学教室の発展に寄与することと、これまで解剖学講座に携わった会員相互の親睦を目的として平成2年に結成され、現在の会員数は約200名にも上る会であり、年に一度総会・講演会および懇親会が開催されている。

今回の寄付に至る経緯として、昨年の総会において、本学創立120周年記念事業の一環である水道橋移転への支援とともに今後の大学運営に役立つための寄付を、との提案がなされ満場一致での賛同を得て決定したものである。

本年の総会は、平成23年8月21日(日)水道橋

校舎の血脇記念ホールにて開催された。90名程の出席者の中、OBでもある金子 譲先生が本大学法人理事長に、また主任教授の井出吉信先生が本大学学長に7月1日付けで就任されたことのお祝い報告があり、金子理事長の御挨拶、井出学長より水道橋への移転を控えた大学の近況説明の後、鹿島隆雄 解剖学講座OB会会長（昭和38年卒）より金子理事長へOB会員一同からの100万円寄付の目録が手渡された。



金子理事長（右）へ寄付の目録を手渡す鹿島解剖学講座OB会会長（左）：平成23年8月21日（日）、水道橋校舎血脇記念ホール

■精到会（口腔外科学教室同門会）より大学へのご寄付

平成23年8月27日（土）、ホテルメトロポリタンエドモント（東京都千代田区）において精到会総会が開催され、精到会会員一同から水道橋への移転を控える東京歯科大学に対して100万円を寄付することが決定した。精到会は、昭和8年10月22日本学口腔外科学教室を開設した遠藤至六郎先生によって開かれた同門会であり、現役を合わせると現在まで約500名の会員で構成されている。総会は2年に1度行われ、総会の後は懇親会が開



金子理事長（右）へ寄付の目録を手渡す榎本精到会会長（中央）：平成23年8月27日（土）、ホテルメトロポリタンエドモント

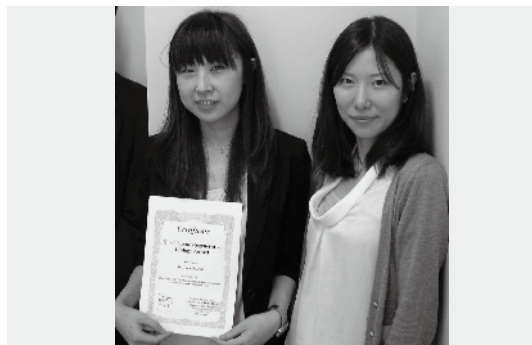
かれる。今年度の総会では128名の会員が参加し、その中に本学理事長である金子 譲先生も精到会会員として出席された。総会中は榎本洋史精到会会長から寄付の提案がなされ、その後満場一致で採択され、金子理事長へ榎本精到会会長より100万円寄付の目録が手渡された。

■落合宏美助教 平成23年度硬組織再生生物学会賞を受賞

平成23年8月27日（土）、東京において開催された第20回硬組織再生生物学会学術大会において、生化学講座 落合宏美助教が平成23年度硬組織再生生物学会賞を受賞した。本学術賞は平成22年度に Journal of Hard Tissue Biology に掲載された論文で最も優れた論文として選ばれたもので、同日に受賞記念講演を行った。生化学講座 斉藤暁子研究助手、東 俊文教授も共同研究者として連名で受賞した。

受賞演題名は

『Repeated TGF- β treatment suppresses IGF-1 expression and inhibits osteoblast differentiation』



受賞した落合助教（左）と斉藤研究助手（右）

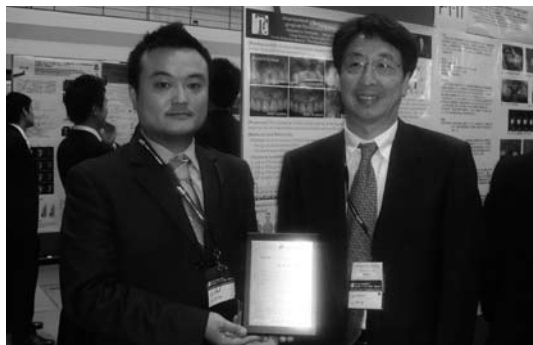
■山田将博助教 日本口腔インプラント学会で平成22年度学会奨励論文賞を受賞

平成23年9月16日（金）から18日（日）に名古屋国際会議場にて第41回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会が開催され、本学有床義歯補綴学講座の山田将博助教が同学会平成22年度学会奨励論文賞を受賞した。表彰式は同学術大会表彰式にて施行された。

受賞論文は「コラーゲン創被覆用スポンジによる培養骨芽細胞のアポトーシス誘導 および機能障害とN-アセチルシステインによるその改善（日

本口腔インプラント学会誌：第23巻 2号、P.3～P.11)であった。本論文は、抜歯窩に填入される市販の創傷被覆用コラーゲンスポンジに対する骨芽細胞の反応性が、抗酸化アミノ酸誘導体をスポンジに含有させるといった簡便な方法で、著しく向上することを細胞生物学的に示している。この技術を臨床応用することにより、抜歯後の歯槽骨の吸収を抑え、その結果、その後の骨造成の必要性の軽減やインプラント治療の適応拡大と安全性向上、インプラント補綴の成功率の向上が期待できる。加えて、骨再生科学と抗酸化医学を有機的に組み合わせた研究上の着眼点が斬新であり、また、このアミノ酸誘導体は生体材料科学全般へ応用が可能である性質を有する。このような研究の臨床有用性や科学性の高さを評価され、受賞に至った。

この抗酸化アミノ酸誘導体は各種骨生体材料に対して骨芽細胞反応性の向上効果を示し、その研究成果は、本受賞論文だけでなく、Journal of Dental Researchをはじめ、多くの科学英文誌に掲載された。また、骨再生における細菌感染予防効果を発揮することも示され、その内容は生体材料科学分野の最も著名な英文雑誌であるBiomaterialsに本年8月に掲載された。今後、さらなる研究成果が期待される。



受賞した山田助教（左）と櫻井 薫教授（右）：平成23年9月16日（金）、名古屋国際会議場

■佐々木穂高助教 日本口腔インプラント学会でデンツプライ賞（優秀ポスター発表賞）を受賞

平成23年9月16日（金）から18日（日）に開催された第41回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会（名古屋国際会議場 愛知）において、口腔インプラント学講座の佐々木穂高助教がデンツプライ賞（優秀ポスター発表賞）を受賞した。

演題名は「閉経後女性における骨代謝マーカー検査とインプラント周囲骨吸収の比較検討」で、インプラント治療の術前検査として行なっている全身的な骨質の評価法である骨代謝マーカー検査が、閉経後女性のインプラント周囲骨の経時的な骨吸収を予測するのに有効であることを報告した。本学会のテーマが「インプラント医療安全の推進行動」であり、検査によるインプラント治療のリスクファクターの明確化が重要な課題となっている。現在も、より確実なEBMを確立する為に継続的にデータの蓄積・解析を行っており、今後の研究の成果が期待される。



受賞した佐々木助教：平成23年9月18日（日）、名古屋国際会議場

■木村 裕大学院生 日本口腔インプラント学会で優秀研究発表賞を受賞

平成23年9月16日（金）から18日（日）に開催された第41回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会（名古屋国際会議場・愛知）において、臨床検査病理学講座の木村 裕大学院生が優秀研究発表賞を受賞した。

本賞は本学術大会で発表され、短期間の研究成果ではなく、これまでの一連の研究をまとめた報告を対象とする課題口演20演題の中から選ばれた。

今回受賞した演題は、「ジルコニアと純チタンディスク上で培養した口腔上皮細胞の初期接着の比較」である。現在、インプラント材料としてチタンが用いられ、良好な治療成績を残しているが、チタンの金属色により審美的観点で不十分な症例が存在するため、ジルコニアが新たなインプラントのアバットメント材料として注目され、応用されている。また、上皮細胞の接着には、生体内と生体外を区別し、防御機構としての働きがあるが、ジルコニアに対する上皮細胞の接着性は明

らかにされていないことに注目し、ジルコニアへの上皮細胞の接着性をインプラント材料として使用され、かつ、接着性が明らかであるチタンと比較、検討したものである。本研究から、ジルコニアへの上皮細胞の接着タンパクや細胞の形態変化はチタンと同様であったため、上皮細胞の接着性という観点で、ジルコニア製アバットメントはチタン製アバットメント同様に使用できる可能性が示された。今後の研究の発展が期待される。



受賞した木村大学院生：平成23年9月18日（日）、名古屋国際会議場

■高柳奈見歯科衛生士 日本歯科衛生学会学術発表優秀賞を受賞

平成23年9月23日（金）から25日（日）に新潟市・朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）において開催された日本歯科衛生学会第6回学術大会において、市川総合病院 歯科・口腔外科の高柳奈見歯科衛生士が、学術発表優秀賞を受賞した。この賞は、昨年、千葉市OVTAにおいて開催された日本歯科衛生学会第5回学術大会にて発表された全ての演題（151題）が選考対象であり、①演題（テーマ）の着眼点が先駆的であること。②歯科衛生分野の発展および業務の向上に貢献できる内容であること。③社会的貢献度が高い内容であること。④当日の発表が優れていること（プレゼンテーション能力および完成度）。⑤総合的な観点から優れていると認められること。という5つの選考基準から優秀であるとの評価を、昨年度の学会終了後に開催された表彰委員会にて推挙され受賞に至った。演題名は『口腔がん患者に対する摂食嚥下療法のとりくみ』であり、口腔がんセンター所属時の発表である。学会の閉会式に先立ち、表彰式が開催され、日本歯科衛生士会の金澤紀子会長より、賞状と

記念品が授与された。また、表彰式終了後、高柳歯科衛生士による受賞記念プレゼンテーションが行われた。なお、最優秀論文賞は該当無し、奨励賞は2名であった。



受賞した高柳歯科衛生士（中央）と、日本歯科衛生学会 武井典子学会長（左）、日本歯科衛生士会 金澤会長（右）

■節電実施状況（7・8・9月）のお知らせ

東日本大震災の影響による今夏の電力使用制限状況に伴い、千葉校舎では節電対策が実施され、各月の電力使用量はポータルサイトにて下記のとおり報告された。

7月の節電実施状況のお知らせ（8月5日付）

現在、政府より昨年比15%の節電を義務付ける電力使用制限令が発動され、千葉キャンパス内に於いても7月から節電を実施しております。皆様のご協力のもと7月の本学の電力使用量は681,000kwhでありました。

昨年同月の電力使用量は875,580 kwhで、約22.22%の削減を達成する事が出来ました。

8月の節電実施状況のお知らせ（9月6日付）

（前文省略）

皆様のご協力のもと8月の本学の電力使用量は688,140kwhでありました。

昨年同月の電力使用量は872,520 kwhで、約21.13%の削減を達成する事が出来ました。

9月の節電実施状況のお知らせ（10月5日付）

（前文省略）

皆様のご協力のもと9月の本学の電力使用量は652,920kwhでありました。

昨年同月の電力使用量は781,800 kwhで、約16.49%の削減を達成する事が出来ました。

電力使用制限令は、9月2日に解除となりましたが、今冬も厳しい電力需給が続くとの見通し

が出ています。今後も引き続き、節電の御協力をよろしくお願い致します。

海外交流

■延世大学校歯科大学との学生交流 本学学生代表9名が訪韓

延世大学校歯科大学との学生交流は、今年24回目を迎えた。本来であれば延世大学校の学生が訪日する年であったが、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による風評被害を懸念した延世大学校からの申し入れにより急遽本学学生が訪韓することとなった。今回の学生交流は佐藤 亨学生部長、小倉 等学生課長引率のもとに、平成23年8月22日(月)から8月26日(金)までの4泊5日の日程で9名の代表学生が参加した。

学生の代表メンバーは、学生会歯科学学生交流会局長の榎本奈三さん(4年)をはじめ、宇野瑠子さん(4年)、星野立樹君(4年)、山田朗寛君(4年)、釘宮嘉浩君(3年)、濱田真衣さん(3年)、河角久美子さん(2年)、根東 愛さん(2年)、亀谷 愛さん(2年)で構成された。

金浦空港では、Hee-Jin Kim学生部長はじめ教職員・学生のお出迎えを受け、延世大学校に向かう途中の昼食において美味しい冷麺をご馳走にな

り、韓国に到着したことを実感した。

延世大学校へ到着すると同時に歓迎式が行われ、延世大学校歯科大学学長のProf. Ho-Keun Kwonをはじめ大学幹部、教職員および学生の熱烈な歓迎を受けた後、学内の見学を行った。

23日(火)は、Prof. Jung-Youn Sooによる興味深い特別講演が英語で行われた後、休憩を挟んで学生交流会議が行われた。文化班は「K-POP Korean Actors VS J-POP」、医療班は「日韓の歯科医院経営の工夫について」をテーマにプレゼンテーションを行い、活発な討議が英語で行われた。学生は少しでも分かりやすく身振り手振りを交えながら一生懸命に説明していた。夕食は宿泊先のコテージでバーベキューが行われ、ゲーム、カラオケ等夜遅くまで交流を深めた。

24日(水)は朝から山間の大きなダムでサマーレジャーを思う存分満喫し、夜はキャンプファイヤーを囲みながら各班対抗の料理対決が行われ盛りあがった。25日(木)はソウルに戻り各班等いろいろな場所を訪れそれぞれの思い出を作っ



歓迎式典終了後の記念写真：平成23年8月22日(月)、韓国・延世大学校

た。

瞬間に時間は過ぎ、帰国の日を迎え金浦空港で最後の記念写真を撮り、さみしい気持ちとまた再会を期待する学生の顔が印象に残った。午後4時25分に学生を乗せた飛行機は、金浦空港を立ち無事羽田空港に到着した。

〔延世大学校との学生交流会を終えて〕

学生会歯科学生交流会局長 榎本 奈三（4年）

今年の交流会には、延世大学校歯科大学からは22名の学生、本学からは3名の初参加者を含む9名の学生が参加しました。今年は私たちが延世大学校の学生さん達をお迎えする予定でしたが、原発事故の影響により急遽昨年引き続き訪韓が決まりました。この異例の事態のため滞在期間の大幅削減が見込まれていましたが、延世大学校のからいにより例年通りの日程で行うこととなりました。そして現地に着き、開かれた歓迎会で延世大学校歯科大学学長である Ho-Keun Kwon 先生はおっしゃいました、「私たちはみなさんの力になりたい、こんな時だからこそ、みんなでこのプログラムをさらに盛り上げよう、それが私

たちに今できることだから。」私は先生のスピーチを聞き、交流会に参加しなければ触れることのできなかった温かさに触れることができました。そしてこれから先もこのすばらしい交流会が続くことを願いました。

また、今年は韓国語を話すことのできる学生が本学からは参加しなかったこともあり、言葉の壁を乗り越えられるか不安に思っていた人たちがたくさんいました。しかし訪韓前には感じていた不安も、実際に交流してみると言葉の壁は思ったほどの障害ではなかったと言っていました。友達に



みんな笑顔、発進前のバナナボートで：平成23年8月24日（水）、韓国・Cheongpyeong



学生会議「医療班」でプレゼンテーションする星野君（4年）：平成23年8月23日（火）、韓国・延世大学校



各班毎に料理対決。おいしい夕食を平らげる：平成23年8月24日（水）、韓国・Camping Lounge



日本古来の浴衣と甚平に着替えて延世大の学生と記念写真：平成23年8月23日（火）、韓国・延世大学校



自由時間は韓国の原宿、明洞へ：平成23年8月25日（木）、韓国・明洞

なりたい、楽しみたい、そのような思いが不安を上回る結果だと感じました。

5日間という短期間ではありますが、充実したプログラムを通して友情は深まり、帰国後もE-mailやFacebookなどにより連絡を取り合うことで私たちの交友関係は続いています。来年また再会できる時は、2年連続で私たちを快く迎えて

くれたことへの感謝の気持ちを表すためにも例年を上回るくらいの大盛況に終わることのできるようなプログラムを組めたらと思っています。

最後になりましたが、私たちをサポートして下さった佐藤教授をはじめとする先生方、学生課の皆さまに心からお礼を申し上げます。

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

川口 充、山根源之、高野伸夫、矢島安朝監訳
歯科医師が行う医療管理 第5版 永末書店、2011

櫻井 薫 編 目で見える総義歯臨床 永末書店、2011

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご報告くださいますようよろしくお願いいたします。

■機関リポジトリへの原稿提供のお願い

東京歯科大学学術機関リポジトリは2007年より事業を開始し、2011年9月には登録論文の件数が1900件を超えました。東京歯科大学で生産された学術研究成果を、電子的な形態で累積的かつ

永続的に保存し、インターネットで誰でもアクセス可能にする機関リポジトリは、大学にとっては、社会に対する説明責任を果たすと共に、研究者にとっては研究成果の可視性向上につながります。論文が雑誌等に掲載された折には、図書館よりその原稿提供の依頼をいたします。お送りいただいた原稿は著作権を調査したうえで、リポジトリにて公開させていただきます。皆様からの原稿提供をお待ちしております。

■研究費図書・科研費図書の所在確認について

図書館では、大学に資産登録されている図書の所在確認を定期的に行っています。本年も9月に研究費図書・科研費図書の所在確認を実施しました。資産登録されている対象図書が各講座、研究室にて適切に管理されていることが確認できました。

〈大学史料室から〉

■史料室収蔵品紹介：

写真(高山紀齋先生のご長男 基氏のアルバムから)



前列左から、血脇守之助、高山紀齋、一井正典 バンデンボルグを師と仰ぐ高山と一井が並んだ貴重な写真である(撮影年月日、場所は不明)

創立120周年記念事業

■東京歯科大学創立120周年記念誌「近代歯科医学教育を拓く」が完成

本学創立120周年記念事業の一環として平成20年5月より進められてきた、記念誌編纂部会編集による創立120周年記念誌「近代歯科医学教育を拓く」がこの度完成しました。記念誌は5部構成で、第1章「東京歯科大学の120年」、第2章「トピックスこの20年」、第3章「120周年記念行事の記録」、第4章「未来へー『継承と発展』」、第5章「資料編」で編集されています。

創立120周年記念誌では、東京歯科大学の前身でわが国最古の歯科医学教育機関として明治23年に創立者 高山紀齋が設立した高山歯科医学院の開設から現代に至るまで、常に歯科医学・歯科医療の発展に寄与してきた東京歯科大学の今日までの足跡が記載されています。

また、本記念誌は詳細な調査により入手した貴

重な史料をもとに、東京歯科大学の歴史のみならず、わが国の歯科医学教育制度の誕生から、近代歯科医学教育・歯科医療に発展するまでの経緯や歯科医師法、歯科医学教育制度の歴史をたどり編纂され、まさにわが国の歯科医学教育の歴史を辿ることが出来る内容となっています。



東京歯科大学創立120周年記念誌「近代歯科医学教育を拓く」

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校 学校説明会開催

平成24年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成23年6月18日(土)午前、および7月28日(木)午前・午後の2部と8月18日(木)午前に行われた。

この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で、実施しているものである。6月の第1回目には27名の志願予定者と16名の保護者の参加、7月の第2回目には午前の部は43名の志願予定者と20名の保護者、午後の部は18名の志願予定者と10名の保護者の参加があり、8月の第3回目には39名の志願予定者と15名の保護者の参加があった。総参加者数は127名の志願予定者と61名の保護者(総計：188名)であり、昨年の同時期に行った学校説明会と比べて若干の減少が見られた。本校では社会人特別選抜枠を設けていることから、その内17名の社会人の参加もみられた。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについてスライドを交えて紹介した後、3年生の学生たちによる最新の

設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを行った。ついで学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学し、本学が歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生が、大学病院あるいは総合病院、事業所等へ就職したことなどを伝え、参加者の入学の意欲を高めることができたと感じられた。

志願予定者の質問を個別に受けるため、学校説明会終了後に入学試験やカリキュラム、学校生活、学費・奨学金、歯科衛生士の業務・授業内容、在校生との交流など、各ブースに分かれて相談会を開催し細かな対応を行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学すると共に講師や学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり参加して良かったとの意見が多く聞かれた。

■歯科衛生士養成校4校合同説明・相談会開催

平成23年8月20日(土)午後1時より水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、歯科衛生士養成校入学志願者のための4校合同説明・相談会が開催され

た。今回は、東京歯科大学水道橋病院において臨床実習をおこなっている歯科衛生士養成校として東京歯科大学歯科衛生士専門学校、太陽歯科衛生士専門学校、アポロ歯科衛生士専門学校、埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科口腔保健科学専攻の4校で実施された。当日は、一戸達也東



合同説明・相談会会場の様子：平成23年8月20日（土）、水道橋校舎血脇記念ホール

京歯科大学水道橋病院長の挨拶の後、模擬授業、参加校の紹介、在校生懇談会、病院見学、個別相談会を行い、約50名の参加者が熱心に説明を受け、それぞれが志望する学校と懇談を行った。歯科衛生士を目指す参加者の進路を決める上での参考になったと思われる。



模擬授業を行う杉原直樹学生部長：平成23年8月20日（土）、水道橋校舎血脇記念ホール

平成23年度科学研究費補助金交付決定

平成23年度科学研究費補助金は、独立行政法人日本学術振興会から、平成23年7月8日付で継続採択分、7月29日付で新規採択分の配分額の決定が通知された。今年度より、一部研究種目（基盤研究（C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）の新

規採択種目）に基金化が導入され、柔軟な研究費の使用が可能となった。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

平成23年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成23年9月1日現在

研究種目	件数	交付決定額（千円）		
		直接経費（研究費）	間接経費	合計
基盤研究（B）	2	6,000	1,800	7,800
基盤研究（C）	25	29,900	8,970	38,870
挑戦的萌芽研究	2	2,000	600	2,600
若手研究（B）	15	20,100	6,030	26,130
研究活動スタート支援	1	1,300	390	1,690
合計	45	59,300	17,790	77,090

科学研究費補助金 平成23年度新規採択課題の要旨

基盤研究（C）宮内 潤 教授
「ダウン症児における一過性骨髄増殖症の発症と自然治癒機構の分子・細胞生物学的解析」

ダウン症候群の新生児期には急性白血病の血液像を示すも無治療で自然治癒する病態があり、一

過性骨髄増殖症 transient myeloproliferative disorder などと呼ばれる。本疾患は胎児期の肝臓にて生じる特殊な白血病で、ダウン症候群の21トリソミーにもとづく21番染色体上の遺伝子過剰と、転写因子をコードするGATA1遺伝子の変異

が疾患発症に深く関わると考えられている。本研究ではGATA1と21番染色体上に存在する原因候補遺伝子の相互作用ならびに胎児肝の造血微小環境が本疾患の発症と自然治癒に果たす役割を解明する。小児がんの自然治癒機構が解明されれば、成人のがん治療にも応用が期待される。

基盤研究 (C) 島崎 潤 教授

「口腔粘膜上皮細胞から角膜実質細胞への分化誘導」

我々は、口腔粘膜上皮細胞を培養して上皮シートを作成し、難治性眼表面疾患の再生に臨床応用してきた。しかしながらこの治療は、角膜実質の混濁には対処できなかった。本研究では、口腔粘膜上皮組織から抽出された間葉系幹細胞類似の神経堤由来細胞を用いて、角膜実質細胞へ分化誘導することを計画している。我々は既に口腔粘膜上皮組織から間葉系幹細胞に類似した細胞群を抽出し、骨芽細胞、軟骨細胞、脂肪細胞、への分化誘導も行った。さらにこの細胞群には神経堤由来の細胞が含まれており、分化誘導によりbIII-tubulinやNeurofilamentを発現した。これらのことから、口腔粘膜上皮組織には角膜実質再生への細胞供給源となりうる細胞が存在すると考えられ、口腔粘膜上皮細胞から角膜実質細胞への分化誘導法を確立することを立案した。

基盤研究 (C) 田中 一郎 准教授

「ビデオ画像のコンピュータ解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発」

顔表情運動障害の程度を評価するために、主観的評価法であるHouse-Brackmann法や柳原法などが広く用いられているが、細かな表情運動や外科治療後の特定領域の微細変化の評価には適していない点が問題であった。そこで本研究では、臨床現場で撮影したビデオ画像を基にしたコンピュータ解析による3次元表情解析システムを、慶應義塾大学理工学部（現在は千歳科学技術大学総合光科学部）と共同で構築し、顔面神経麻痺などの顔表情運動障害の診断や治療効果の評価、手術計画支援などへの臨床応用を行い、さらには標準的な評価システムとして国内外へ普及させることを目的としている。

本システムは臨床現場で短時間に簡便に使用で

き、安価・小型・高精度・定量性・簡便操作性・即時性などの利点を有した、実際の臨床に応用可能な優れた客観的評価法であり、他にも顔面神経麻痺後遺症の病的共同運動の診断・治療評価、顔面神経麻痺のリハビリテーション、顔面痙攣（診断・治療評価）、美容外科・歯科口腔外科領域の手術（術後評価）、皸などの解剖生理、表情の心理学的解析などへの臨床応用も可能である。

基盤研究 (C) 渋谷 義宏 准教授

「変形性顎関節症における軟骨細胞の機能障害の解明および治療法の開発」

変形性関節症は関節軟骨の変性、破壊を生じる疾患であるが、その細胞・分子レベルのメカニズムに関してはほとんど解明されていない。ヘッジホッグは骨格形成において軟骨細胞の増殖・分化を制御する分泌性タンパクであるが、最近、変形性関節症の進行にヘッジホッグ (Hh) シグナルの異常を伴うことが報告された (Linら Nature Medicine 2009)。本研究では変形性顎関節症の発症、進行に伴う下顎頭の形態変化におけるインディアンヘッジホッグの役割を遺伝子レベルで明らかにし、さらに、組織培養した正常下顎頭およびメカニカルストレスを負荷した変形性顎関節症モデルの下顎頭をHh蛋白、Hh関連分子で処理し、その機能と組織修復の可能性を検討する。

基盤研究 (C) 橋本 貞充 准教授

「歯肉付着上皮細胞におけるタイト結合構成タンパク質とバリア機構」

歯周組織の恒常性維持に重要な役割を果たす付着上皮細胞によるバリア形成について、タイト結合 (Tight junction) によるバリア機構がどのように機能しているかに焦点を当て、1) 新鮮組織を用いた急速凍結ディープエッチング・フリーズフラクチャーレプリカ法によるタイト結合構成タンパク質と細胞膜直下のアクチン細胞骨格、サイトケラチン細胞骨格の超微構造の三次元解析、2) 分光共焦点レーザー顕微鏡によるタイト結合構成タンパク質の局在変化の観察、3) 気相培養による口腔粘膜上皮培養シートを用いたLPS刺激によるタイト結合の透過性変化のタイムラプス解析、によって明らかにすることを目

的として研究を立案した。本研究の臨床的意義としては、付着上皮におけるタイト結合によるバリア機構が歯周疾患の発症や進行どのように関わっているのかを明らかにすることで、歯周病予防と治療に影響を与えることが期待される。

基盤研究 (C) 澁川 義幸 講師

「象牙芽細胞における新規ATP輸送タンパク質を介する神経-石灰化情報伝達」

象牙芽細胞は象牙質形成のみならず、象牙質感覚の感覚受容細胞として機能しているとする仮説がある。これまでの科学研究費補助により、象牙芽細胞に外的な刺激を受容する各種の分子センサーが発現していることを示してきた。しかし、刺激を受容した後の歯髄ニューロンへの感覚情報の伝達については明らかではない。近年、味細胞-味覚ニューロン間シナプスでは、ATPがその神経伝達物質として働くことが明らかになってきた。そこで、神経伝達物質の放出経路である新規ATP輸送タンパク質に着目し、象牙芽細胞-歯髄ニューロンにおけるシナプス連絡を明らかにしたい。

基盤研究 (C) 佐野 司 教授

「顎関節疼痛を関節液蛋白濃度の可視化により診断するプロジェクト」

顎関節症の患者に見られる関節液の病的な集積であるとされるjoint effusion (以下、JE) はMRIの臨床応用によって、T2強調像で均一な高信号像として描出が可能となった。しかし、JEは疼痛との関連が示唆されている一方で、示唆されない報告があり、現在のT2強調像によるJEの評価では、疼痛の診断が困難である。本projectでは、水など長いT1緩和時間を有する部位の信号を抑制するMRIの反転回復撮影法であるfluid-attenuated inversion recovery (以下FLAIR) 法によりJEの蛋白濃度の差を視覚化することを試み、JEの蛋白濃度と疼痛の関連を明らかにすることを目的とする。そして、顎関節症の疼痛の新たなMRI診断法を開発することを最終的な目的とする。

基盤研究 (C) 櫻井 学 講師

「催眠・鎮静薬による健忘作用に対するアデノ

シン受容体の関与」

これまでミダゾラムなどのベンゾジアゼピン系薬物の健忘効果にはガンマーアミノ酪酸 (GABA) 受容体の関与が考えられているが、詳細なメカニズムは解明されておらず、アデノシン受容体の関与の可能性も報告されている。これまで、ミダゾラム鎮静下にアデノシン受容体を刺激することにより、鎮静・催眠効果が増強され、逆に拮抗することにより減弱されることから、ミダゾラムの鎮静・催眠作用にアデノシン受容体が関与している可能性があることを報告した。この研究では、ミダゾラムも含め鎮静薬・麻酔薬の健忘作用にアデノシン受容体が関与していることを示すと共に、臨床的には、催眠・鎮静薬にアデノシン三リン酸製剤を併用してアデノシン受容体を刺激することにより、特に歯科処置に強い恐怖心を持つ患者に対しての健忘効果の増強を可能とすることが目的である。

基盤研究 (C) 櫻井 敦朗 助教

「口腔内細菌叢解析に基づく齲蝕・哺乳齲蝕病因論のリコンストラクション」

近年の遺伝子解析技術を利用し、口腔内細菌叢の全容を解析、健康な対照群と有病者群との間で比較することで、口腔感染症の発症要因を検討する。本研究は齲蝕、哺乳齲蝕を中心に発症要因の検討を行う。齲蝕発生にはミュータンスレンサ球菌の関与が強いとされているが、通常の齲蝕と哺乳齲蝕の臨床像は大きく異なり、齲蝕形成に影響を与える菌種・因子も同じではないと考えている。本研究によって、研究がなされていない細菌種の中にも疾患発生に影響するものが明らかになる可能性がある。得られる口腔内細菌叢に関するデータは、口腔内細菌由来する口腔・全身疾患の発症予測と予防に向けた臨床応用にも大きな意義を持つものとなる。

挑戦的萌芽研究 井上 孝 教授

「創製した人工ペプチドのバイオミネラリゼーション能による挑戦的歯髄治療」

歯髄は、歯の恒常性を維持するうえで大変重要な組織であるが、一度感染など傷害を受けると、患者の疼痛などの問題から保存することが

困難な場合が多い。抜髄処置はできるだけ避けたいが、上手くいく症例ばかりではなく、残髄や感染源の除去不良、根充材などにより根尖病巣を作る場合も少なくない。本研究では、抜髄を避ける意味で歯髄をそのまま石灰化させるという挑戦的プロジェクトである。そのために、歯髄の構成要素の大部分を占めるコラーゲン、神経線維および血管に結合しバイオミネラリゼーション（生理的石灰化）を起こすペプチドアプタマーを創製し、歯髄の石灰化を促すことで、根管処置を減らし歯牙の喪失を防ぐことにある。

挑戦的萌芽研究 吉成 正雄 教授

「結晶学的アプローチによる顎骨の力学的特性評価への挑戦」

顎骨の力学的特性はインプラント治療の成否を決める重要な因子である。骨の力学的特性は、骨密度（BMD）のみではなく、生体アパタイト（BAp）結晶配向性に大きく依存することが報告されているが、顎骨のBAp結晶配向性と力学的特性の具体的な関係に言及した研究は少なく、ましてやヒト顎骨を使用した研究は皆無である。そこで本研究では、ヒト顎骨のBAp結晶配向性が力学的特性の具体的な指標になるのかを検証することを目的とした。さらに、動物を使用した片咀嚼モデルおよびインプラント埋入モデルにおいてメカニカルストレスの影響を検討する。これらの結果はインプラント治療に有効な知見を提供するものと考えられる。

若手研究（B）岩沼 治 助教

「筋機能再活性へ向けた基礎研究 一骨髄SP細胞を筋分化させるストレス強度の解析一」

筋機能の低下を防ぐ、または再活性するにはリハビリテーションが有効であると一般的に知られているが、不適切な時期や強度で運動を行うと、障害の悪化をまねくともいわれている。現在においても筋機能再活性のメカニズムを有効に働かせる運動強度・時期については不明な点が多かった。

そこで、本研究では筋機能再活性に関与するメカニズムの一端を解明することを目的とし、筋組織内に存在しない骨髄SP細胞がメカニカルストレスにより筋へ分化する適刺激を求め、そ

の際に発現する特異的タンパクを同定する。これにより、効率的な筋機能再活性が人為的にコントロールすることができ、加齢による筋萎縮抑制やリハビリテーションにおける効率的な機能回復が可能となると期待される。

若手研究（B）津村 麻記 助手

「象牙芽細胞における刺激受容機構と象牙質形成の機能連関」

象牙芽細胞は神経堤由来の象牙質形成細胞である。象牙質表面に加えられた刺激は、修復あるいは防御機転としての生涯にわたる象牙質形成を誘発する。一方では近年、本細胞が歯髄や象牙質感覚を担う感覚受容細胞として機能している可能性も着目されている。しかし、外的刺激と関連する象牙質形成過程と、歯髄・象牙質感覚の受容機構における象牙芽細胞の役割、また象牙芽細胞で受容した刺激をどのように歯髄神経へ伝達するのかについては不明である。そこで、本研究は温度刺激、機械刺激、侵害刺激に感受性を持つTRP（transient receptor potential）チャンネルに着目し、象牙芽細胞における本チャンネル発現と象牙質形成・感覚受容との機能連関を検索する。本研究の結果は、間接歯髄覆髄法など極めて頻繁に行われる歯牙象牙質の急速再生療法薬剤の生物学的基盤を有する新規開発につながる。

若手研究（B）國分 克寿 助教

「人工バイオ微小環境を利用した癌細胞転移能の動的評価系の開発」

癌細胞の転移機構の解明とその制御は癌科学に残された大きな難問である。転移の予測システムの一つとしてマイクロアレイ解析があるが、マイクロアレイは細胞を固定して検出を行ういわゆる「静的」なアッセイ系である。癌転移が微小環境における「動的」な現象であることを考慮すれば、それに近い微小環境を生体外で人為再構成し、動的な状態で転移能力を測定するアッセイ系を確立することが重要である。そこで本研究は、癌細胞の転移能力を生体外で動的に評価する人工バイオ微小環境を構築することを目的とした。具体的には、モチーフ・プログラムド人工蛋白質創出技術MolCraftを利用すること

で、癌転移微小環境を生体外で人為再構成し、動的な状態で癌細胞の転移能力を測定する評価系を開発する。

若手研究 (B) 坂本 潤一郎 助教

「拡散強調MRイメージングによる舌癌リンパ節転移予測プロジェクト」

舌癌は原発巣のみならず、頸部リンパ節転移の術前評価が治療計画の立案や予後予測に際し、重要である。術前評価ではCTやMRIなどの画像検査の役割は大きい。近年、PETの登場やMRIの機器性能の向上により、正常組織や癌組織の機能評価ができるようになった。拡散強調MR画像は組織における拡散現象と毛細血管などの灌流現象を画像化するMRI機能評価画像のひとつである。本研究では拡散強調MR画像によりファントムおよび生体組織での拡散現象および灌流現象の描出性について評価を行うこと、また、舌癌原発巣における拡散現象および灌流現象について評価し、リンパ節転移との関連性について傾向をつかむことを目的とする。本法が確立することにより、術前における頸部リンパ節転移の診断精度の向上、ひいてはリンパ節転移の予測について大きく貢献する可能性があるものと考えられる。

若手研究 (B) 竜 正大 助教

「義歯床用レジンに付着した微生物に対する抗菌性機能水の除菌効果」

義歯に付着する微生物の抑制は口腔衛生状態の維持、向上に有効な手段の一つである。器械的清掃に加え義歯洗浄剤を用いた化学的清掃が有効であるが、現在市販されている義歯洗浄剤はその毒性や義歯用材料への為害性などが問題となっている。

本研究は、既に調理機器の除菌や消臭に用いられており大腸菌などに対する除菌効果も確認されている、溶媒用低濃度アルコールと食品添加物とで生成された無害の抗菌性機能水に着目し義歯床用レジンに付着した口腔内微生物に対する抗菌性機能水の除菌効果を検証するものである。

本研究により、生体に無害かつ除菌効果の高い義歯洗浄剤の開発が可能になると考えられる。

若手研究 (B) 荒野 太一 助教

「ラジアルフロー型バイオリアクターを用いたヒト間葉系幹細胞の三次元培養」

三次元培養を行う装置の一つにラジアルフロー型のバイオリアクターを用いた方法がある。この方法は、調整槽にて培養液の温度、pH、溶存酸素を細胞に適した状態に調整し、それを一定速度で還流させることにより、細胞を三次元的に長期間培養することが可能であり、大きなサイズの三次元培養が可能であると報告されている。

よって本装置を用いて顎骨の再生が可能となれば、口腔内における大きな骨欠損部位に対する有用な治療法となり得ると考えられる。そこで我々はラジアルフロー型のバイオリアクター装置を用いて顎骨の再生をめざし研究を行うこととした。

若手研究 (B) 佐々木 穂高 助教

「骨代謝マーカー検査で顎骨のBone Qualityを評価する」

近年、インプラント治療患者の高齢化に伴い問題となる骨粗鬆症は、骨密度のみならず“骨質 = Bone Quality (BQ)”の低下が関与している事が知られている。インプラント治療のリスク評価としてBMDからの評価はなされているがBQの観点からは報告がない。本研究は、BQ評価法として有用な“骨代謝マーカー検査”と顎骨のBQ評価・インプラント治療の予後との相関性を検討することで、新たなインプラント治療のリスク評価法を確立することを目的とする。1. 骨代謝マーカー検査とインプラント埋入時に採取した顎骨のBQ評価の比較検討、2. 骨代謝マーカー、顎骨のBQとインプラント治療の予後・周囲骨の経時的変化の相関性を明らかにすることで、臨床への有用性を評価していく。

若手研究 (B) 恩田 健志 助教

「口腔扁平上皮癌の非侵襲的診断用検査ツールの開発」

本研究ではプロテオミクス解析技術を駆使して口腔扁平上皮癌細胞が特異的に分泌するタンパク質を同定し低侵襲で反復して採取可能な唾液、血液、尿中に分泌された標的タンパク質を

測定することにより唾液・血液・尿を試料とした簡便に行える口腔癌のスクリーニング法ならびに早期診断分子マーカーの開発を試みる。確定的な診断マーカーとしての遺伝子産物を同定することはもちろんであるが、口腔癌のrisk factorとなるタンパク質候補も同時に同定することが可能であり健康診断などの際に口腔癌になりやすい口腔内環境であるか否かを簡便に判定し口腔内環境の改善により口腔癌の予防についても貢献可能であると考えている。本研究の成果は口腔癌のスクリーニング検査キットとして歯科開業医にて簡便に口腔癌の検診が行える道具として普及させたい。また、ご家庭で口腔癌のセルフチェックが個人で行える健康器具として国民に普及できればと考えている。

若手研究 (B) 大久保 真衣 講師

「嚥下機能維持増進プロジェクトー嚥下機能低下を予防するー」

健康高齢者および嚥下障害者軽度の者の、スクリーニング検査や侵襲の少ない超音波診断装置、内視鏡検査などの画像診断で嚥下機能の健診を行う。その結果から、将来の起こり得る嚥下機能障害を予測し、各グレードの予防プログラムを作成する。これにより嚥下機能低下予防システムを確立し、特定健康診査・特定保健指導（いわゆるメタボ検診）の口腔機能版のようなものを目指す。客観的評価からは軽度な嚥下機

能低下を発症させているが、自覚がほとんどないような健康高齢者から、自分の嚥下機能の特徴を意識し、将来起こりえる障害を想定することにより、口腔機能向上のため運動や食生活の考慮等を行うことが可能である。将来的には医療費削減にもつながると考える。

研究活動スタート支援 塚越 絵里 リサーチレジデント

「唾液腺に発現するジアゼパム結合阻害因子 (DBI) を介した口腔乾燥の分子機構」

本研究室では口腔乾燥の成因に関する研究について進めてきた。これまでに、中枢型ベンゾジアゼピン受容体 (CBR) と末梢型ベンゾジアゼピン受容体 (PBR) が唾液分泌の抑制性調節機構を構成する因子として唾液腺に存在することを報告してきた。我々は近年、それら受容体に対する内因性リガンドであるジアゼパムバインディングインヒビター (DBI) が唾液腺に存在し、DBIが抑制性調節機構に関与する内因性物質として唾液分泌抑制に関係することを報告した。本研究の目的は、DBIの各唾液腺組織について細胞レベルでの発現動態を解析しそれに関連した遺伝子を検索することで、それら遺伝子の相互作用を明らかにすることである。本研究において、DBIやDBI関連遺伝子による唾液分泌抑制機構を解析することで、薬物性口腔乾燥の発生メカニズムの解明が期待される。

■平成23年度科学研究費補助金研究者別交付一覧 (本学研究代表者分)

平成 23 年 9 月 1 日現在

研究種目	研究代表者氏名	23年度 新規採択	交付決定額 単位 (千円)	研究課題名
			直接経費	
基盤研究 (B) 一般	眞木 吉信 教授		3,200	特定および要介護高齢者の口腔環境・機能のアセスメントと改善・向上プログラムの構築
基盤研究 (B) 一般	新谷 誠康 教授		2,800	遺伝性エナメル質形成不全症の原因探査と遺伝子診断法の企画
基盤研究 (C) 一般	武田 友孝 准教授		600	咬合干渉が情動反応に及ぼす影響
基盤研究 (C) 一般	津坂 憲政 准教授		500	T C R ζ 鎖 m R N A 3' U T R 異常に伴う全身性エリテマトーデス発症機序
基盤研究 (C) 一般	君塚 隆太 講師		300	歯周病原性菌線毛のアミロイド線維形成とバイオフィルム形成との関連性
基盤研究 (C) 一般	石原 和幸 教授		700	歯周病原性細菌コンソーシア形成機構の解析
基盤研究 (C) 一般	松久保 隆 教授		1,200	学齢期における生活習慣病リスクと咬合咀嚼機能の関連性に関するコホート研究
基盤研究 (C) 一般	杉原 直樹 准教授		500	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成

研究種目	研究代表者氏名	23年度 新規採 択	交付決定額 単位(千円)	研究課題名
			直接経費	
基盤研究(C)一般	芹田 良平 准教授		700	高濃度二酸化炭素暴露による付加価値赤血球が敗血症ショックに及ぼす影響
基盤研究(C)一般	兼子 智 講師		800	精子品質管理による不妊治療の安全性向上-精子頭部空胞とDNA損傷の関連性解析
基盤研究(C)一般	佐竹 良之 講師		900	培養口腔粘膜上皮シートと血管新生
基盤研究(C)一般	石上 恵一 教授		900	ガム咀嚼はストレスを緩和する
基盤研究(C)一般	山下秀一郎 教授		900	骨折治癒メカニズムを応用した歯科インプラントにおける新規骨誘導法の開発
基盤研究(C)一般	服部 雅之 講師		1,200	歯科用高耐食チタン合金の多用途応用の試み
基盤研究(C)一般	見明 康雄 准教授		500	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性
基盤研究(C)一般	井出 吉信 教授		700	骨梁構造における荷重伝達を考慮したインプラント偶発症防止シミュレーション
基盤研究(C)一般	齋藤 淳 教授		1,600	歯周病原菌の複数菌感染による宿主細胞侵入機構の解析と新規制御法の検討
基盤研究(C)一般	水口 清 教授		1,200	DNA多型による法医学的個人識別精度の確実な進展を目指して
基盤研究(C)一般	宮内 潤 教授	○	1,600	ダウン症児における一過性骨髄増殖症の発症と自然治癒機構の分子・細胞生物学的解析
基盤研究(C)一般	島崎 潤 教授	○	1,400	口腔粘膜上皮下細胞から角膜実質細胞への分化誘導
基盤研究(C)一般	田中 一郎 准教授	○	1,700	ビデオ画像のコンピュータ解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発
基盤研究(C)一般	渋川 義宏 准教授	○	1,300	変形性顎関節症における軟骨細胞の機能障害の解明および治療法の開発
基盤研究(C)一般	橋本 貞充 准教授	○	1,300	歯肉付着上皮細胞におけるタイト結合構成タンパク質とバリア機構
基盤研究(C)一般	澁川 義幸 講師	○	2,900	象牙芽細胞における新規ATP輸送タンパク質を介する神経-石灰化情報伝達
基盤研究(C)一般	佐野 司 教授	○	2,600	顎関節疼痛を関節液蛋白濃度の可視化により診断するプロジェクト
基盤研究(C)一般	櫻井 学 講師	○	1,500	催眠・鎮静薬による健忘作用に対するアデノシン受容体の関与
基盤研究(C)一般	櫻井 敦朗 助教	○	2,400	口腔内細菌叢解析に基づく齲蝕・哺乳齲蝕病因論のリコンストラクション
挑戦的萌芽研究	井上 孝 教授	○	1,100	創製した人工ペプチドのバイオミネラリゼーション能による挑戦的歯髄治療
挑戦的萌芽研究	吉成 正雄 教授	○	900	結晶学的アプローチによる顎骨の力学的特性評価への挑戦
若手研究(B)	山田 将博 助教		600	抗酸化アミノ酸誘導体によるベータ型リシン酸三カルシウム骨補填材の生体親和性の向上
若手研究(B)	田坂 彰規 助教		900	咀嚼能率がストレス緩和に影響を及ぼすか?
若手研究(B)	松永 智 講師		1,100	コーンビームCT画像を用いたインプラント周囲骨梁のマイクロメカニクス
若手研究(B)	山本 信治 講師		1,400	口腔癌のマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常と新規癌抑制遺伝子の解明
若手研究(B)	渡邊 章 助教		1,200	口唇裂・口蓋裂の候補遺伝子のダイレクトシーケンスによる解析
若手研究(B)	稲垣 覚 助教		1,100	歯周炎局所における歯周病原菌の歯肉上皮細胞への付着、侵入メカニズムの解析
若手研究(B)	岩沼 治 助教	○	1,700	筋機能再活性化へ向けた基礎研究-骨髄SP細胞を筋分化させるストレス強度の解析-
若手研究(B)	津村 麻記 助手	○	2,600	象牙芽細胞における刺激受容機構と象牙質形成の機能連関
若手研究(B)	國分 克寿 助教	○	1,200	人工バイオ微小環境を利用した癌細胞転移能の動的評価系の開発
若手研究(B)	坂本潤一郎 助教	○	1,400	拡散強調MRイメージングによる舌癌リンパ節転移予測プロジェクト
若手研究(B)	竜 正大 助教	○	1,200	義歯床用レジンに付着した微生物に対する抗菌性機能水の除菌効果
若手研究(B)	荒野 太一 助教	○	1,200	ラジアルフロー型バイオリクターを用いたヒト間葉系幹細胞の三次元培養
若手研究(B)	佐々木穂高 助教	○	900	骨代謝マーカー検査で顎骨のBone Qualityを評価する
若手研究(B)	恩田 健志 助教	○	1,800	口腔扁平上皮癌の非侵襲的診断用検査ツールの開発

研究種目	研究代表者氏名	23年度 新規採 択	交付決定額 単位(千円)	研究課題名
			直接経費	
若手研究(B)	大久保真衣 講師	○	1,800	嚥下機能維持増進プロジェクト-嚥下機能低下を予防する-
研究活動スタート支援	塚越 絵里 リサーチレジデント	○	1,300	唾液腺に発現するジアゼパム結合阻害因子(DBI)を介した口腔乾燥の分子機構

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎

- 取手歯科衛生専門学校(学生7名、教員2名)
平成23年9月1日(木)解剖実習室、病院見学
- 東京歯科衛生専門学校(学生80名)
平成23年9月8日(木)解剖学教室、病院見学
- 茨城歯科専門学校(学生45名、教員2名)
平成23年9月29日(木)解剖学教室、病院見学

■海外出張

- 澁井武夫講師(口腔外科)
北京大学口腔医学院口腔顎顔面外科学において、唇顎口蓋裂の手術技術取得、および歯科医学教育についての研究のため、平成23年8月1日(月)中国・北京へ出発。帰国は平成24年7月31日(火)の予定。
- 佐野 司教授(国際渉外部長)
International Alliance for Oral Healthに参加される金子理事長に随行、およびElective Study行事に参加のため、8月1日(月)から9日(火)まで、アメリカ・フィラデルフィア、およびニューヨークへ出張。
- 石原和幸教授(微生物)
Elective Studyの引率のため、8月1日(月)から8日(月)まで、アメリカ・ヒューストンへ出張。
- 松永 智講師(解剖)
アルバータ大学iRSMにて研究打ち合わせのため、8月5日(金)から12日(金)まで、カナダ・アルバータへ出張。

- 山本将仁大学院生(解剖)
コンプルテンセ大学解剖学教室との共同研究のため、8月20日(土)から27日(土)まで、スペイン・マドリッドへ出張。
- 佐藤 亨教授(学生部長)、小倉 等学生課長
延世大学校歯科大学との学生交流引率のため、8月22日(月)から26日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 亀山敦史講師(総合診療科)
ルーヴェンカトリック大学との研究打ち合わせ、および第45回IADRヨーロッパ部会(CEO-IADR)で発表のため、8月25日(木)から9月5日(月)までベルギー・ルーヴェン、およびハンガリー・ブタペストへ出張。
- 福田謙一准教授(水病・歯科麻酔)
34th Annual Scientific Meeting of the Association for Dental Science of the Republic of China、および台北歯科医師会にて教育講演のため、8月25日(木)から29日(月)まで、台湾・台中、および台北へ出張。
- 内山健志教授(口腔外科)
北京大学口腔医学院にて講義、およびMa教授との意見交換のため、また、モンゴルにおける口唇裂口蓋裂治療とその指導のため、9月3日(土)から11日(日)まで、中国・北京、およびモンゴル・ウランバートルへ出張。
- 高山 伸講師(市病・外科)
Breast Cancer Symposium 2011で発表のため、9月7日(水)から11日(日)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

- 井上 孝教授(臨床検査病理)
FDI年次世界歯科大会に日本歯科医師会学術員として出席のため、9月12日(月)から17日(土)まで、メキシコ・メキシコシティへ出張。
- 福田謙一准教授(水病・歯科麻酔)
FDI年次世界歯科大会にて教育講演のため、9月13日(火)から18日(日)まで、メキシコ・メキシコシティへ出張。
- ビッセン弘子教授、南 慶一郎非常勤講師(水病・眼科)
European Society of Cataract & Refractive Surgeonsに参加、および発表のため、ビッセン教授は9月16日(金)から、南非常勤講師は9月15日(木)から、それぞれ22日(木)まで、オーストリア・ウィーンへ出張。
- 松久保 隆教授(衛生)
延世大学歯学部部長Kown教授を表敬訪問のため、および韓国公衆衛生学会の打ち合わせのため、9月16日(金)から19日(月)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 小田 豊教授(歯科理工)
第47回ISO/RC106フェニックス会議に出席のため、9月17日(土)から26日(月)まで、アメリカ・アリゾナへ出張。
- 佐野 司教授(国際渉外部長)
鹿児島大学主催第6回日米未来フォーラムにて講演される金子理事長の随員として、9月21日(水)から25日(日)まで、アメリカ・サンノゼへ出張。
- 上田貴之准教授(有床義歯補綴)
ベルン大学歯学部補綴科において共同研究のため、および35th European Prosthodontic Associationで発表のため、9月23日(金)から10月3日(月)まで、スイス・ベルンへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
第12回アジア移植協会会議に出席のため、9月23日(金)から29日(木)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 一戸達也教授(歯科麻酔)、佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)、新谷誠康教授(小児歯科)
- Dental Expo 2011-International Dental Exhibitionにて講演、およびモスクワ国立医科大学歯科大学訪問のため、9月24日(土)から30日(金)まで、ロシア・モスクワへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖)
台北医科大学歯学部5年生に「Implant Anatomy」と題した講義を行うため、9月25日(日)から27日(火)まで、台湾・台北へ出張。
- 櫻井 薫教授、竜 正大助教、古池崇志助教、和泉佐知大学院生(有床義歯補綴)
35th European Prosthodontic Associationに参加、および発表のため、櫻井教授は9月27日(火)から、竜助教、古池助教、和泉大学院生は9月26日(月)から、それぞれ10月3日(月)まで、スイス・ベルンへ出張。
- 竹内瑞樹看護師、片岡ゆかり看護師、麻生利恵看護師(市病・看護部)
第2回アジア周術期看護師協会会議に参加、および発表のため、竹内看護師は9月28日(水)から、片岡看護師、麻生看護師は9月29日(木)から、それぞれ10月2日(日)まで、韓国・済州島へ出張。
- 澁川義幸講師、津村麻記助手(生理)
6th NCX International Conference 2011で発表のため、9月30日(金)から10月6日(木)まで、イタリア・ラッコアメノへ出張。
- 佐藤正樹ポストドクトラルフェロー、Sobhan Ubaidusポストドクトラルフェロー(口腔科学研究センター)
6th NCX International Conference 2011で発表のため、9月30日(金)から佐藤ポストドクトラルフェローは10月6日(木)まで、Sobhanポストドクトラルフェローは10月7日(金)まで、イタリア・ラッコアメノへ出張。
- 黒田英孝大学院生(歯科麻酔)
6th NCX International Conference 2011で発表のため、9月30日(金)から10月6日(木)まで、イタリア・ラッコアメノへ出張。

大学日誌

平成23年8月

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 (月) | 第43回全日本歯科学学生総合体育大会
(競技：7/29～8/11)
[事務主管：日本歯科大学生命歯学部]
千葉病院臨床研修管理小部会
防火・防災安全自主点検日
電子カルテシステム運用管理委員会
(市病) | 5 (月) | 千葉病院臨床研修管理小部会
薬事委員会(市病) |
| 3 (水) | リスクマネージメント部会
ICT会議
第2回サマーインターンシップ(市病)
第4回病院見学会(市病) | 6 (火) | 総合講義検討委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
リスクマネージメント部会
ICT会議、輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
4年生HBワクチン接種
学生部課事務連絡会議
平成23年度第7回病院見学会(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病) |
| 4 (木) | 医療連携講演会
第2回サマーインターンシップ(市病)
感染制御委員会(市病) | 7 (水) | カルテ指導委員会
防災訓練(市病)
手術室運営委員会(市病)
緩和ケア講演会(市病)
大学院運営協議会
ICT委員会(市病) |
| 5 (金) | ICLSメンバー講習会(市病) | 8 (木) | 感染予防対策チーム委員会(水病)
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
教養科目協議会
医療安全研修会
地域連携委員会(市病)
NSTカンファレンス・勉強会(市病) |
| 6 (土) | 平成24年度第3回看護師採用選考試験
(市病)
臨床研修歯科医説明会(他大学出身者
対象)[於：血協記念ホール](水病) | 9 (金) | 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
1～4年生前期授業終了
歯科衛生士専門学校臨地実習指導者
連絡会
看護部運営会議(市病)
臨床検査運営委員会(市病)
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
臨床検査室委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病) |
| 8 (月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会 | 10 (水) | 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校創立記念日
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 9 (火) | 第3回サマーインターンシップ(市病)
第5回病院見学会(市病) | 11 (木) | 高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校合同サマースクール
(水病) |
| 10 (水) | 第3回サマーインターンシップ(市病)
糖尿病教室[1回目](市病)
リスクマネージメント部会(水病) | 12 (金) | 延世大学校歯科大学との学生交流
プログラム(～26日(訪韓))
機器等安全自主点検日 |
| 11 (木) | 全体係長会
手術室運営委員会(市病) | 13 (火) | 第6回病院見学会(市病)
糖尿病教室[2回目](市病)
災害対策実施部会(市病) |
| 12 (金) | ICT委員会(市病) | 14 (水) | 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]
平成24年度第5回看護師採用選考試験
(市病) |
| 15 (月) | 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 | 15 (木) | 1～4年生夏期休暇終了
教務部(課)事務連絡会 |
| 18 (木) | 業務連絡会
高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校学校説明会
ふれあい看護体験(市病) | 16 (金) | 1・3・4年生前期定期試験(～28日)
2年生前期定期試験(～27日)
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験
(～29日)
クリニックバス委員会(市病)
災害対策実施部会(市病) |
| 20 (土) | 平成24年度第4回看護師採用選考試験
(市病)
患者サロン(市病)
歯科衛生士学校合同サマースクール
(水病) | 17 (土) | 第3回360度評価のための研修ワーク
ショップ【テーマA】
平成24年度第7回採用選考試験(市病)
午後のリサイクル(市病)
機器等安全自主点検日
医療安全管理委員会(市病)
第105回歯科医学教育セミナー |
| 22 (月) | 延世大学校歯科大学との学生交流
プログラム(～26日(訪韓))
機器等安全自主点検日 | 20 (火) | |
| 24 (水) | 第6回病院見学会(市病)
糖尿病教室[2回目](市病)
災害対策実施部会(市病) | | |
| 26 (金) | 災害対策実施部会(市病) | | |
| 27 (土) | 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]
平成24年度第5回看護師採用選考試験
(市病) | | |
| 31 (水) | 1～4年生夏期休暇終了
教務部(課)事務連絡会 | | |

平成23年9月

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 (木) | 1～4年生授業再開
6年生第2回総合学力試験(～2日)
歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開
防火・防災安全自主点検日
感染制御委員会(市病)
治験審査委員会・倫理委員会(市病) | 17 (土) | 第3回360度評価のための研修ワーク
ショップ【テーマA】
平成24年度第7回採用選考試験(市病)
午後のリサイクル(市病)
機器等安全自主点検日
医療安全管理委員会(市病)
第105回歯科医学教育セミナー |
| 2 (金) | ICLSメンバー講習会(市病) | 20 (火) | |
| 3 (土) | 5年生第1回総合学力試験
平成24年度第6回採用選考試験(市病) | | |
| 4 (日) | 平成24年度臨床研修歯科医選考 | | |

21 (水)	基礎教授連絡会 輸血療法委員会(市病)	27 (火)	カルテ整備委員会 診療記録管理委員会
22 (木)	千葉校舎課長会 医療監視(市病)		大学院運営委員会 大学院研究科委員会
26 (月)	管理診療委員会(市病) 給食委員会 医療連携委員会 歯科衛生士専門学校3年生前期試験 (～27日) 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)	28 (水)	解剖慰霊祭[於：水道橋校舎] 第332回大学院セミナー 看護部運営会議(市病) C P C (市病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
27 (火)	教職員研修会(水病) 薬事委員会 データ管理者会議	29 (木)	教養科目担当者懇談会 第333回大学院セミナー

平成24年度東京歯科大学大学院歯学研究科（博士課程） 学 生 募 集 要 項

- 募集人員 歯学専攻34名
(社会人特別選抜(若干名)、口腔がん専門医養成コースを含む)
- 入学願書受付期間 第Ⅰ期 平成23年10月3日(月)～平成23年11月25日(金)まで
第Ⅱ期 平成24年1月12日(木)～平成24年2月10日(金)まで
- 試験科目
一 般 1) 外国語(英語：辞書(電子辞書)の持込み可)
2) 専攻主科目試験および面接
社会人 1) 外国語(英語：辞書(電子辞書)の持込み可)
2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)
3) 専攻主科目試験および面接
※社会人選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる。
- 選考日・選考会場 第Ⅰ期 平成23年12月3日(土) 東京歯科大学 千葉校舎
第Ⅱ期 平成24年2月18日(土) 東京歯科大学 千葉校舎
- 合格者発表 第Ⅰ期 平成23年12月9日(金)正午 ホームページにて発表
第Ⅱ期 平成24年2月24日(金)正午 ホームページにて発表
- 学 費
入 学 金 300,000円
授 業 料 600,000円
学生会費 2,000円
施設維持費 100,000円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。
- ※受験資格(一般)
1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。
平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した(する)者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。
2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。
- ※受験資格(社会人)
開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。
1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。
2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二
椎名 裕 新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩
(平成23年9月現在)



編集後記

8月、はじめての「Elective Study」プログラムが、姉妹校の台北医学大学とテキサス大学歯学部で行なわれました。希望者の中から研修への参加資格が与えられたのは、成績が優れた35名の選ばれた学生達。7月の終わり、第1学年から第3学年の6名が台北に向け、そして、8月には、第4学年から第6学年の6名がテキサス、ニューヨークへと旅立ちました。参加者の多くにとっては、はじめての海外の歯科大学への訪問。出発前、胸の中には、同級生の中から代表として自分が選ばれたという喜びとともに、姉妹校での交流や英語でのコミュニケーションに対する不安、そして、私でいいのかな、他にもっと相応しい人がいるんじゃないか…、という思いがあったかもしれません。しかし、写真の中の彼らの顔には、姉妹校の学生達とうち解け合って、あたたかな仲間としての空気が感じられます。海外の歯科大学での、同じ道をめざす仲間との小さな出会いは、彼らひとり一人のこれからの歯科医師としての人生に、大きな変化を与えていきます。姉妹校の繋がりのなかに蒔かれた小さな種は、5年後、10年後にどんな風に育っているのでしょうか。

夏の暑い日、第43回全日本歯科学生総合体育大会が開かれました。東日本大震災の影響で大学別の総合順位のない大会。そんなことはお構いなしに、304人のクラブの代表選手達は、夏の日を戦い、硬式庭球部は泥臭く、バレーボール部はすべての試合をストレート勝ちで、そして水泳部はかつての18連勝の栄光を復活させて、悲願の総合優勝を勝ち取りました。個人でも各種目で優勝したのは、最優秀選手に選ばれたバレーボールの久保宗平くん、6連覇を成し遂げた軟式テニス女子ペアの池田朋子さんと大山陽子さん、水泳の個人種目の齋藤 伸くんと加藤禎彬くん、リレーメンバーの白取佑智くん、西村達郎くん、金澤康道くん、バドミントン男子ダブルスの大久保康彦くんと三邊正樹くん、卓球男子シングルス優勝の藤山祐平くん、陸上競技では優秀選手賞の多田恵子さん、そして谷口修一朗くん。表彰台の一番高い所で、いったいどんな思いが胸に去来したことでしょう。苦しい練習を乗り越えたあとの選手としての戦い、仲間との声を囁かしての応援…。表舞台には出ない評議員としての歯学体の運営や他校との渉外、各部門の主管や運営…。シャッターで切り取られた一瞬の中に、それぞれの夏が詰まっています。



「秋の日のグラウンド」
学生達の賑わいが去った秋の日のグラウンド…。
誰もいない朝。静かに落ち葉が積もっていきます。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)